

九大広報

Kyushu University Campus Magazine

vol. 57

2008.5

九大
至宝

理学研究院
生物科学部門
染色体機能学研究室
アサガオの
突然変異体



総長対談

マサチューセッツ大学総長

ジャック・マーティン・ウィルソン

トピックス

稲盛財団と京セラから伊都へ贈り物

研究・ふろんとランナー「地質学」

清川 昌一 理学研究院 講師

江戸ばなし(一)

九州大学名誉教授

中野三敏

平成という時代を迎えて、この所、江戸に対する社会の姿勢が大きく変わってきたように思います。曲りなりにも半世紀近く江戸研究に携わってきた私自身、驚くほどの変り方だといっても、言い過ぎではないようです。

明治以来、近代国家を目ざした我が国にとって、江戸は全面的に否定されるべき対象でした。謂はゞ江戸的ではないことが即ち近代的存在である所以だったのです。これはまた歴史の必然でもありました。しかも明治初年に江戸否定を自らに課した人々は、凡て江戸生れでした。江戸の教育をうけ、江戸人としての人格形成を果した人々だったのです。逍遙、鷗外、露伴、漱石でさえ凡てギリギリの江戸生れ、勝海舟、木戸孝允、山縣有朋、伊藤博文ともなれば文政―天保の生れですから、頭からドブプリの江戸人です。それが自分の中の江戸を自ら否定するのですから、これはもう近親憎悪的江戸否定そのものです。

それが大正となると四十五才以下の日本人は凡て明治生れとなり、もはや近親憎悪的江戸否定からは自由になって、趣味的に江戸を偲ぶ余裕が生じます。鏡花、荷風、潤一郎といった江戸趣味の時代の到来です。更に昭和に入ると六十才以下、即ち大多数の日本人が明治以降の生れとなって、明確な江戸離れが自覚されます。つまり江戸を客観視出来る時代に入ったのです。即ち江戸は学問の対象となりました。今日、所謂江戸学と言えるものの殆んどは、この頃から始まっています。藤井乙男、頼原退蔵、山口剛といった我々の大先輩の業績は、一般の方にはや、耳遠い存在かもしれませんが、皆この時期にまとめられます。

そして戦後、民主主義の時代の到来となり、もはや江戸に逆戻りする恐れは払拭されたという確信が生じた辺りから、新らしく近代主義的な江戸理解が始まります。

つまり江戸を否定するだけの存在として見るのではなく、その中に近代の萌芽を探し求めて、それだけを評価しようとするものです。たとえば洋学。平賀源内や杉田玄白、司馬江漢などをその代表として、近代の黎明と讃え、更には近松のヒューマニズム、西鶴のリアリズムを近代文学の先駆者の位置におき、京伝、三馬、一九、春水等を庶民文芸、町人文化の華と称し、浮世絵こそが江戸を代表する美術となり、教科書等で江戸を扱う時の定番となって、それ等以外は評価すべきものは無しとします。まさしく筆者などの学生時代がそれ一色であったことは、誰しも経験した所であった筈です。一方、映画やテレビの画面では江戸の政治を封建制・身分制の悪の集積とさめつけ、代官は特権町人とするんで飽く迄私腹を肥やし、その影で可憐な町人の若い男女は死に追いやられ、恋は御法度、武士は横暴、農民はひたすら苛斂誅求の対象に過ぎぬとする構図が飽きもせず繰り返されたのは、今も続く傾向ではないでしょうか。

流石に六十年代になると、こうしたパターン化を批判した時代小説類も現れて、独自の江戸観が披露され始めますが、それとても所詮は近代市民のさやかな哀感や、中間管理職的な苦勞と通底する人間感情の贅を江戸の下級武士や庶民の生活に見出す辺りに読者の共感を誘うといったもので、要するに近代を基準とした上で、江戸と近代の或る種の同質性を言い立てるに過ぎないようです。こ、迄がまさに平成以前の状況であり、それはまさしく近代主義的江戸理解の一語で括り得るように思います。

さて、平成の今どうなったのでしょうか。

中野三敏 (なかの みつとし)

国文学者

一九三五年福岡市生まれ。六四年早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻修了。七二年九州大学文学部助教授、八二年同教授、九九年退職。九八年紫綬褒章受章。



巻頭エッセイ

江戸ばなし

名誉教授

中野三敏

1

総長対談

マサチューセッツ大学 総長

ジャック・マーティン・ウィルソン

九州大学 総長

梶山千里

3

トピックス

- SIAIDAY「高樹のぶ子と浸る上海」……………12
- 稲盛財団と京セラから伊都へ贈り物……………13
- ミュンヘン大との共同セミナー……………15
- ネットアカデミー2とSSO-KID……………16

シリーズ研究・ふろんとランナー

理学研究院地球惑星科学部門 講師

清川昌一

17

伊都キャンパス施設探訪

船舶海洋性能工学
実験棟

21

対談

大学評価の
拠点を目標して

23

ニュース

- 卒業式……………25
- 入学式……………26
- 学生の合同書展……………27
- (財) 恵愛団が病院前に宿泊施設……………27
- 福岡女子大学、西南学院大学と連携協定……………28
- 総合研究博物館常設展示室がオープン……………28
- 油症の診療と研究の拠点開設……………28

告知版

- 九大コールアカデミー東京公演……………29
- RIAMフォーラム……………30
- セクシャル・ハラスメント等防止への取組……………31

こんな本出しました

- 難病相談ガイドブック……………32
- 骨が語る古代の家族……………32

九大生が案内する世界のキャンパス

- トロント大学……………33
- チリカトリック大学……………34

新聞で報道された九州大学

- 平成二十年二月～三月……………35

同窓会の話題

- ありあけ九大会から来訪……………37

編集後記

……………37

九大至宝 (表紙写真説明)

……………38

□ お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。

□ 投稿をお受けします。文字数は、300字未満。手書きのものも受け付けますが、できればテキストファイルのフロッピーディスク又はEメールでお送りください。可能な限り掲載しますが、本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は掲載しません。

■ 九州大学関係者が本誌記事を転載する場合は、「九大広報第〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に事務までご連絡願います。

■ 「九大広報」は九州大学ホームページでもお読みいただくことができます。

■ 次号は、2008年7月発行予定です。

総長対談

世界的な潮流である大学改革。
新しい大学管理運営システムの構築に
チャレンジし続ける日米の総長が語る。

日本の大学には「改革の潮流」が押し寄せており、九州大学も例外ではありません。これは世界的な趨勢でもあり、中でもアメリカは大学改革の先達でもあります。今回はマサチューセッツ大学のジャック・マーティン・ウィルソン総長が平成十九年度学位記授与式に来賓としてお見えになった好機をとらえ、大学管理運営システム構築へのチャレンジをメインテーマに梶山総長と大いに語り合っていました。



マサチューセッツ大学 総長

ジャック・マーティン・ウィルソン

Jack M. Wilson

九州大学 総長

梶山 千里

「司会進行」柳原 正治 九州大学 副学長

この対談は、二〇〇八年三月二十五日（火）、箱崎キャンパスの総長室で行われました。

死ぬほど勉強できた。

留学生にそんな良い思いを残す大学でありたい。

柳原 それではこれから対談を始めたと思います。最初に梶山総長から一言ご挨拶をお願いします。
梶山 まず、本日の卒業式にご出席いただき、非常に素晴らしいお祝いの言葉を頂戴したことに心より感謝申し上げます。

ウイルソン総長のお話の内容は科学、技術、芸術、歴史と多岐にわたり、大学院の学生たちは非常に感激していたと私は確信しております。有難うございました。

私は本学の教職員に、外国人留学生には「良い思い」をしてそれぞれの国に帰ってもらうようにしなければならぬと常に申し伝えております。「良い思い」とは、九州大学で死ぬほど勉強したという満足感です。そういう意味での誇らしい「良い思い」を胸に、学位をもって国に帰ってもらいたいのです。私がそういう考えになりましたのは、マサチューセッツ大

学留学時代にそのような経験を私自身がしたからです。

ウイルソン総長（以下JW） 先生

のこれまでの道筋は九州大学の学生に素晴らしい範を垂れるものだと思います。高分子化学を勉強された時代から様々な変化を目にしてこられる中で、新しいことをする術を習得される必要があったと拝察します。単に高分子化学だけでなく、歴史や文化も理解されなければならぬかと思っています。

私が本日の祝辞で学生に伝えたいのは実はそういうことなのです。繋がりを理解してもらいたい、つまり勉強したことはもちろん非常に大切だけれども、それを芸術や歴史、文化と関連付けてもりたいのです。それができれば、専門分野が何であれ、より高い能力を発揮できると思うのです。高分子化学を勉強し、さらに文化についても理解しているという具合に、そして先生がおっしゃったように、「良い思い」を持つことは非常に大切です。

梶山 私は常に、九州大学だけで

なく外国で、あるいは日本の他の大学で勉強して視野を広めるようにと学生に言っています。九州大学で勉強しただけではできないような経験をし、そのような経験を積み重ねていきますと、人生で何かを決めなければいけない時に、より良い選択をすることができそうです。より良い選択を人生で積み重ねていくことで、ベストの人生を送ることができると思うのです。ですから、人生でどれだけ経験を幅広くしているかということが非常に大切です。

JW 先生の意見に全く同感です。学生に経験をさせるということは極めて重要です。だからこそ、私はマサチューセッツ大学の総長に就任して真っ先に、学術と国際交流を担当する副学長職を創設しました。より多くの学生たちに、九州大学を始めとする異なった環境の下で経験を深めてほしいと思ったのです。そのような学生たちへの配慮がこれまで十分でなかったかもしれないという思いから、さらに多くの学生たちが日本、中国、

ドイツ、ポルトガル、アフリカに行き、見聞を広めることができるようにしました。加えて、米国内の主要企業に学生を派遣し、学業とは異なる経験をする機会も与えています。

柳原 自分の専門分野だけでなく、周辺分野をも学生は学ぶべきであるとのウイルソン総長のお話ですが、この二日間総長とお話する中で、総長ご自身が物理学だけでなくそれ以外の分野、特に歴史にも非常に該博な知識をお持ちであることがよく分かりました。本日のご挨拶の中でも、ジョン万次郎の話が出てまいりました。ジョン万次郎を知っている人はアメリカでもわずかだと思のですが、そのお話が出てきたことに大変感銘を受けました。

マサチューセッツ大学の 管理運営システム

柳原 本日は、三つの点について両総長にご議論いただきましたと思います。一つ目はマサチューセッツ大学の管理運営システムについ

総長対談

ジャック・マーティン・ウィルソン
×
梶山千里

てです。アメリカの州立大学にはチャンセラーとプレジデントという制度がありますが、この制度は日本にはなく、私どもには分かりにくいところがありますので、ぜひチャンセラーとプレジデントの関係について概要をお話いただければと思います。特に、プレジデントとチャンセラーの間でどのように情報を共有し意思疎通がなされているのかという点について話いただけますでしょうか。

JW アメリカでは公立大学でそのような制度があります。公立大学は巨大で、複数のキャンパスに分かれていますので、それぞれが緊密に協力できるような大学制度を作ったのです。最も有名なものはカリフォルニア大学の制度でしょう。数多くのキャンパスを擁するカリフォルニア大学では、理事会が設置され、一名のプレジデントと、各キャンパスにそれぞれ一名のチャンセラーが配置されています。マサチューセッツ大学でもこのような制度をとっております。各州において様々な制度がありま

すが、マンモス大学では大体においてこのような形をとっています。

しかしおっしゃるとおり分かりにくい制度です。カリフォルニアやマサチューセッツをはじめとするいくつかの州では大学のトップをプレジデントと呼び、各キャンパスの長をチャンセラーと呼んでいます。逆にトップリーダーをチャンセラー、各キャンパスのリーダーをプレジデントと呼んでいる州もあります。アメリカ国内でもこのように混乱が生じてしまいますので、呼称にこだわるのではなく、その役割にこそ焦点を当てる必要があります。つまりプレジデントであれチャンセラーであれ、ある地域もしくは州の公立大学のキャンパスすべての戦略を統括する人が一名いて、個々のキャンパスを担当する人がそれぞれいるということです。各キャンパスを担当する個々人は、州の戦略に責任を持つ者により選任されます。私

の大学の場合ですと、プレジデントがその任を担います。

最も重要なことは、それぞれの役割が大きく違うということです。マサチューセッツ大学のプレジデントは理事会と協力して全体の戦略を策定します。そしてチャンセラーは理事会とプレジデントが策定した戦略に基づいてキャンパスを運営する責を担います。キャンパスは州の全体目標に沿う限りにおいて、完全ではないものの、幅広い自治が認められます。予算はプレジデントが管理し、チャンセラーの任命も、先程申し上げましたように、プレジデントが管理します。そして主要な戦略もプレジデントの管理下にあります。大学には協力して行ったほうが良いものがたくさんありますが、その一方で個別に行ったほうが良いものもあります。例えば、英文学科や高分子化学科、化学科等に於ける学術的な戦略については、

それぞれのキャンパスで策定するほうが良いでしょう。しかし給与支払いや情報技術サービスのような、統括可能な事柄は一緒に実施しなければなりません。そうすることで経費削減になりますし、質も高く保てます。ですからプレジデントは一緒に行えるものは統括すべく見配り、各キャンパスで実施した方が良いものについては、責任をチャンセラーに移譲します。

梶山 チャンセラーは各々のキャンパスに関してであれば戦略を立案できるのですか。

JW はい、戦略が各々のキャンパス向けのものであればできますし、チャンセラーは学部長（ディーン）や教職員を雇用しますが、プレジデントはチャンセラーに協力し、キャンパスの全体戦略を策定する際にもチャンセラーに相談します。

ここでクリーンエネルギーを例にとってお話しましょう。クリーンエネルギー戦略において、本部のあるアムハースト校にはアメリカでも最高レベルの風力エネルギー

ー専門家を擁する、全米トップと言ってもよい風力エネルギー学科があります。また再生可能エネルギーであるバイオ燃料の分野でも優秀な教員がおります。そしてローエル校にはフレキシブル・ソーラー・セルを開発することに長じたチームを擁しております。そこで、これらが一緒にうまく機能するように働きかけて、他のキャンパスでクリーンエネルギーの分野に従事する人たちが、アムハースト校のクリーンエネルギーの学者や技術者と協働できるように計らい、国や州のニーズを満たすようにすることがプレジデントの役割となります。

もう一つ興味深い例があります。幹細胞研究です。州知事から疾病治療を目的とする幹細胞研究について戦略を立案するようにとの要請を受け、それが十億ドル、日本円だと一千億円規模のプロジェクトとなりました。アムハースト校には動物の幹細胞分野における最高の研究学者がおりますが、ヒトの肝細胞研究者となるとほとん



どおりません。医学部（メディカルスクール）にはヒトの幹細胞研究においてトップレベルの人材がありますが、動物の幹細胞研究は行っていない。

そこでアムハースト校とメディカルスクールの合同チームを形成し、そのチームに他のキャンパスからナノテクノロジーの科学者が加わり、州規模の幹細胞戦略を策定しました。各キャンパスから技能を集結させ、重要な医学的課題に取り組んだのです。

柳原 キャンパス間の役割分担についてお伺いします。国際交流についてはキャンパス毎にプログラムがあると聞いております。先程、国際交流担当の副学長を置かれたというお話でしたが、そうするとプレジデントの役割は大学全体での国際交流戦略を立案することなのでしょ

うでしょうか。
JW そのとおりです。各キャンパスの国際プログラムを調整するのが総長室の仕事です。そしてこのこともまた、それぞれのキャンパスの力をさらに高め、学生によ

り多くのチャンスを与えることを主眼としています。これについても例を挙げてお話ししましょう。アムハースト校は、ドイツのバーデン・ヴュルテンベルク州の大学と長い交流の歴史を持っています。

一方ダートマス校はヘッセン州の大学と強い繋がりを持っています。そのような経緯から、ダートマスの学生はヘッセン州の、例えばフランクフルト大学に、そしてアムハーストの学生はバーデン・ヴュルテンベルク州のハイデルベルグ大学などに留学するという伝統が長らく続いていました。しかしこの二つを調整することで、現在はアムハーストとダートマスのいずれのキャンパスの学生でもドイツのどちらの場所にでも留学できるようにになりました。アムハーストの学生がフランクフルトに行きたければそのように手配できますし、そうすることで学生たちのチャンスは増えます。しかし、各キャンパスに対して命令するようなことはありません。ただ、キャンパス毎に策定したプログラムを調整す

ることで、学生が手にするチャンスは増えることになります。

梶山 そういうことであれば、五つのキャンパスのチャンセラーは集まっているいろいろな話し合いをする必要があると思うのですが、プレジデントはチャンセラーと会って、大学全体のプログラムについて話をされるのですか。

JW ええ、しょっちゅう行っています。チャンセラーは一堂に会して、プレジデントと毎月一回、公式な話し合いの場を持ちます。

我々はこれをプレジデントによるチャンセラー協議会と呼んでいます。まさにこの部屋のような場所で会議を開き、様々な議題について話をします。例えばクリーンエネルギーについて、幹細胞について、そして国際研究等について話し合い、計画を立案します。そしてその後いつも昼食と一緒に楽しく取りながら、形式張らずにその他のことについても話をするのです。これ以外にも、毎月一回くらいの頻度で、それぞれのチャンセラーと公式に会います。おそらく頻

総長対談

ジャック・マーティン・ウィルソン
×
梶山千里



九州大学 梶山総長

度はもう少し高いと思いますが、最低でも月一回は会います。個別に会うことで、それぞれのチャンセラーの抱える課題や、自分がどのような助力ができるか、そしてチャンセラーがキャンパスでどのような活動をしているのかを知ることができます。それに加えて、年に一〜二回、公式に各キャンパスを訪問します。キャンパスには月に五回くらい足を運びますが、公式に行くのは年一、二回で、チャンセラーに対して「一日キャンパス訪問をします。一日中拘束されるつもりですので、私に見せたものがあれば何でもどうぞ。」

と伝えるのです。まさに「チャンセラーの日」です。そこでチャンセラーが一日を計画し、誰と話してもらうか、何を見てもらうかを決め、その後にチャンセラーが作った計画に沿って、私が一日の公式訪問をするのです。

梶山 プレジデントとチャンセラーが各キャンパスの戦略というような様々な議題について話し合った時、常に意見が合うわけではなく、常にはあまり楽しくないランチになるのでしょうか。

JW もちろん専門家であれば、そしてそれが極めて優秀な専門家

の集まりであれば、しばしば意見は対立します。でもそれがランチをより楽しくするのですよ。意見が合わない時こそ、進歩が始まるのです。最終的には合意に達することを望みながら、どうして意見が違うのかを理解しようとするのですから。話し合いで解決できない意見の対立はこれまでは殆どありませんでした。たまにそのようなことが起こった場合は、プレジデントが決定を下し、チャンセラーはその決定を実行せねばなりません。でもそんなことはめったにありません。

学長への大学管理の 権限委譲が進む九州大学

柳原 それでは二番目の話題に移りたいと思います。二〇〇四年の四月に、日本の国立大学は大きな変化を遂げましたが、梶山総長に九州大学の現在の管理システムについて簡単にお話いただければと思います。

梶山 今から五年前に国立大学は国立大学法人に変わりました。以

前は各学部の教授会が学部の運営についてすべてを決定することができました。学部長も選ぶことができました。総長は教職員の選挙で決まっていました。法人化され新しい制度の下では、教授会の権限は実質的にほとんどなくなりました。とはいっても、学部長は今でも教授会で選ばれますし、依然としていろいろなことに対して権利を守ろうとしています。教授会の権限がなくなったというのは単に規則的なことです。ですから教職員の態度をいかに変えるかという取り組みが現在進められているところです。

ただ非常に変わったのは、総長は教員の選挙で選ばれるのではなくなったということです。教員は選挙で意向投票はできるけれども、決定権は持たなくなりました。代わりに、七名の外部の人、七名の内部の人から構成される総長選考会議が最終的に決定します。ただその時には先程申し上げた意向投票を考慮します。しかし法人化で大きく変わったことは、総長が大

学を管理する自由度が増えたということですよ。

その一つの良い例をお話します。私どもはこの後にお連れする新しい伊都キャンパスに移転中です。六本松というキャンパスには一般教養を学ぶ一年生と二年生が通っています。もし国立大学のままでしたら伊都キャンパスに移転するのにもう五年から六年かかったでしょう。しかし法人化になり、総長が、例えば土地を売ってそのお金で移転するということを決めることができるようになりましたので、来年の四月にはもう移転することができるようになったのです。三年から四年も移転を早めることができたわけですから、総長の管理上の自由度が大きくなったと言えます。

もう一つの良い点は、大学の教授はこれまで自分の研究は象牙の塔の中でいい、成果を社会に還元する必要がないと考え、自分の興味あるいは楽しみのために勉強していたのですが、それが今は必ず成果を社会に還元し、見せなければならぬ、そしてそれによって評価されるというシステムに変わったことです。ですから意識改革は大きく進んできたと思います。特に文系の先生方は象牙の塔の中にいるというのが一般的でしたが、今は社会との関わりを熱心に求めています。

JW 従前の構造と新たな構造についての話をされましたが、大変面白いですね。従前の構造はドイツの大学ととても似ているように感じます。新しい構造はアメリカ

カの大学に似ていますね。アメリカの大学はすべて、「共有するガバナンス」という一つの哲学に基づいて組織されています。この哲学は先程先生が説明されたことに共通します。「共有するガバナンス」のもとでは、決定を下すという権威はプレジデントに与えられます。例えば、先程先生がおっしゃった移転の決断がそれにあたります。理事会に直属するプレジデントに権威が与えられるのです。

しかし、「共有するガバナンス」のもとでは、プレジデントは教員と意見交換することが求められます。だからといって彼らの助言を必ず受け入れなければならぬというわけではありません。先生が言われましたように、教員は賛成しないかもしれません。教員に意見を聞いても、「移転するな」というかもしれません。プレジデントはそれについて考えなければなりません。それでも移転するという決定を下すことができます。もし意見を撥ねるのであれば、教員は不愉快な思いをすることにな



マサチューセッツ大学 ウィルソン総長

総長対談

ジャック・マーティン・ウィルソン
×
梶山千里

**大学の新しい管理運営に
不可欠なのは長期的戦略です。**

柳原 どうも有難うございました。それでは三つ目の話題、リーダーシップを発揮して大学をいかに運営するかということについてお話を伺いたいと思います。

アメリカの大学のシステムと日本のは新しい国立大学法人のシステムには多くの共通点があるとのことでしたが、日米いずれの大学においても、人材や資金を集めてブランド力を向上させるための戦略をいかに立てていくのかということとが非常に重要なポイントになっていくのだらうと思います。この点につきまして、梶山総長、ウィルソン総長からご意見をいただければと思います。

梶山 ウィルソン総長も同意され、と思います。総長の役目とは、短期の様々な作戦を立てることも重要ですが、五年後、十年後に、

るわけですから、プレジデントはしっかり考えなければなりません。ですから、プレジデントとしては教員のアドバイスは減多なことでは拒絶せず、できる限り受け入れるようにするけれども、正しいことは、例え教員を不快にしてもおうとも、断固として行わなければならぬと考えています。

梶山 つい最近まで移転に反対する意見はものすごくありました。しかし、共通教育のキャンパスを来年の四月に移すということが決まると、移転をしたいというグループが一挙に増えました。

国立大学が法人化したことの象徴的な変化は、以前は九州大学とは学科や学部集合でしたが、今や学部や学科が九州大学という組織の一部となりつつあるということです。しかし制度や規則がそのように変わっても、職員や教員の態度や意識が変わらなければ満足に大学は動きませんので、今意識改革を徐々に進めているという段階です。

JW 我々の構造は九州大学の新



司会進行の柳原副学長

どのような教育研究、社会貢献、国際貢献ができるかということに視野に長期的な戦略を立てることだと思っています。別の言い方をすると、一、二年の戦略を立てるのはチャンセラーの役割かもしれませんが。ですから、大学の将来構想をいかに明確に立てるか、そのために組織をどう変えていくのか、政府や企業からいかに資金を集めるか、ということが非常に重要だと思っています。

また、社会が教育に対して何を求めているかをきちんと理解する必要があります。例えば、感性を非常に大切にすべきだと思う学問の分野がたくさんあります。現在のほとんどの学問においては、感性をきちんと融合させないと良い

結果が得られません。「感性」を学問にするのは大変なのですが、来年にユーザー感性学という大学院を作ります。

それから、福岡は日本で二番目に自動車生産量の多い県です。また福岡はＩＣ関係やシステムＬＳＩ生産においても非常に強い県です。しかし日本の大学で自動車を目標とした教育組織がこれまでにないのです。そこで自動車科学の大学院も来年ないしは再来年に作ることにしています。

それからもう一つ重要なことを申し上げます。私どもの伊都キャンパスには「エネルギーキャンパス」という愛称がつけられています。今から五年くらいの間に重要となるエネルギーは石炭が中心になると思います。つまり「クリーンコール」、石炭のガス化や液化ですね。石炭の学問は非常に古いもののようですが、最も重要な学問です。そして後ほど見ていただく新しい伊都キャンパスは、実は「水素キャンパス」という名前で知られており、水素の製造から、

貯蔵し、使うことまでを研究しています。四階建ての建物が水素材料先端科学研究センターで、「ハイドロジャーニアス」という名前で呼ばれています。

その他に九州大学が強いのは核融合の分野です。フランスではITER計画が進められており、フランスと日本でITERをどちらに作るかを争いました。最終的にはフランスが選ばれましたが、今回、日本で核融合研究を中心に行っている核融合科学研究所、大阪大学、そして九州大学の三つの機関がコンソーシアムを作り、フランスのコンソーシアムと一緒に人材育成をすることになりました。日本のコンソーシアムの代表が九州大学です。

これからの五十年あまりを見据えて、石炭、水素、核融合を教育研究するキャンパスにするつもりです。そういうことを決めるのも総長の仕事です。そのためには組織を変えなくてはなりません、そのための研究費も獲得しなければなりません。スタッフもさらに

必要です。そのような長期間の将来計画を九州大学の重要な戦略として進めていきます。

柳原 ウイルソン総長には大学でのクリーンエネルギーや幹細胞のプロジェクトについてすでにお話いただきましたが、中長期的に大学のブランド力を高める戦略をいかに立てておられるかについて、お伺いできればと思います。

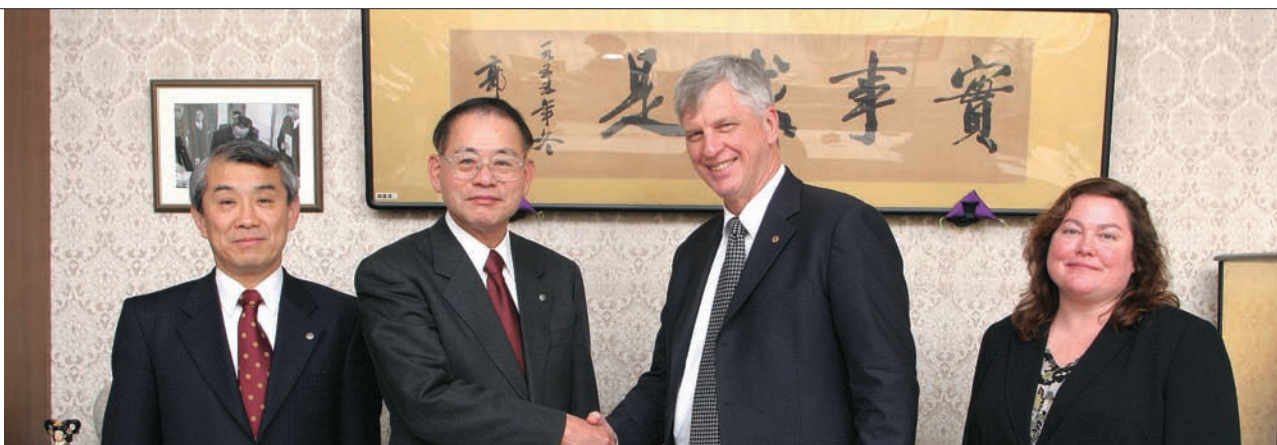
大学の真の自立を 実現するために

JW これまでお二人が話されたことは、国、地域、そして世界全体において最も重要な社会的課題に真剣に取り組む大学の姿であると思います。しかしその課題の多くは、かつての大学運営と大きく変わったことにあるようですね。

さて、ここでもまたアメリカの公立大学での資金調達についての話に戻りたいと思います。公立大学はいわゆる「土地の払い下げ」により設立されました。各州における教育と研究を支援するために、寄付という形で州政府が土地を供与

しましたので、「土地払い下げ」大学と呼ばれたのです。当時課題とされたのは、農業や力学といった実学への支援でした。こういった問題が当時は最も重要だったのです。先程先生方から今日最も重要な課題についてのお話がありましたが、そうしますと今の大学は昔とは劇的に変わりはしたものの、時代の最も重要な問題に取り組むといった点では全く変わっていないとも言えます。取り組む問題の種類は大きく変わりましたが、社会が直面する問題への責任といった点では全く変わっていないのです。

ただ、問題解決のために必要とされる業務自体は大きく変わりました。公立大学の勃興期には州から予算が全額支給されていました。今日、マサチューセッツ大学の総予算は二十四億ドル、日本円で二四〇〇億円ですが、州からもらうのは四億八千万ドルだけです。つまり州からの援助は全体のおよそ二十％程度で、残る十九億ドルあまりはどこから調達してこなければ



対談を終えて（左から）柳原副学長、梶山千里総長、マサチューセッツ大学ウィルソン総長、国際関係担当の総長補佐スーザン・ケリーさん

総長対談

ジャック・マーティン・ウィルソン
×
梶山千里

ればならないのです。これは本当
に大変なことです。そのためには
教員が変わらなければならぬの
はもちろんのこと、経営陣やチャ
ンセラーも変わらなければならぬ
のです。昔は州からの資金供与
があったので、資金調達のことな
ど考えなくてよかったのですが、
今日では、チャンセラーは大学運
営のための資金調達に長じていな
いといけません。全く新しいスキ
ルが求められているのです。

私が総長に就任した時点で、大
学に四十三年在籍し、チャンセラ
ーに就任してから二十五年という
方がいました。雇用された当時は、
誰も資金調達のことなど考えてい
ませんでしたし、この方もそのよ
うなことをする必要はなかったの
ですが、現在チャンセラーとして
新しく雇用された方は、資金調達
の重要性をしっかりと理解していな
いといけません。

梶山 チャンセラーが資金を集め

始めると、プレジデントも同じよ
うに集めることになるのですか。
JW どちらとも言えません。お
金はキャンパスに向けられるわけ
ですから、私がサポートするとす
れば、それぞれのキャンパスに寄
付してもらうように動くことです。
総長室が寄付を受けることはあり
ません。ですから競争ではなく、
チームワークなんです。

梶山 最後に、九州大学の財政状
態についてお話ししたいと思います。
私どもの収入はおよそ十億ドルで
す。九州大学は学部生と大学院生
を合わせた学生数が二万人以下で
すから、マサチューセッツ大学の
規模を考えますと、大体同程度の
収入ではないかと思えます。私ど
もは法人と言いましても、まだ国
立大学法人ですので、殆どの人た
ちは依然として国から百%の資金
供与があると勘違いをしています。
金額は大学の規模にもよるのだ
が、九州大学は現在予算の四十五

%を国から受け取っています。と
いうことは、残る五十五%につい
ては自分たちで調達しなければな
らないのです。

JW 私どもと同じ斜面を滑り降
りていらつしやるようで残念に思
います。我々はおよそ二十%まで
減っており、そちらは四十五%で
すが、同じ道筋に間違いないです
ね。

柳原 予算は毎年1%ずつ減って
います。

JW 最低ラインがどこになるか
はまだ判りませんが、ゼロより下
回ることはないことを願っていま
す。しかし、ゼロに向かってまっ
すぐ減っていくことになるのでし
ょうね。

柳原 最後は少しばかり悲観的な
話になりましたが、本日はお時間
を頂戴し大変有益なお話を聞かせ
ていただき有難うございました。
JW こちらこそお招きいただき
有難うございました。とても楽し
かったです。

S I A - DAY 「高樹のぶ子と浸る上海」



任教授で作家の高樹のぶ子氏のイニシヤティブによるプロジェクトで、「作家の感性で現代アジアをつかみ取り、広く発信する」ことを狙いとするものです。

この日は、高度成長のまつただ中であつて戦前の租界時代の面影を残す上海の食文化などについてのレクチャー、現代中国を代表する作家パン・シャンリー氏による美しくも冷たい光を放つ女性を描いた短編小説『謝秋娘よ、いつまでも』やそれに呼応した高樹氏の短編小説『投』の朗読、上海で感じたことを写真と言葉によつて表現したフォトデッセイ三篇が紹介されました。休憩時間には「おやつS I A」として、芝麻球（ごま団子）や芝麻交切片（ごまのおこし）などが振る舞われました。また、S I A - DAY終了後には、前回からスタートした大学院共通教育科目があり、大学院生との活発な議論が行われました。

S I A - DAY参加者のアンケートには「上海という都市を女性、食の切口からとらえて、その全体像に迫ったことに感動した」、「初めての参加だったが、知的自由空間がとても心地よかった」、「高樹先生の話はとても楽しく、また、考えさせられることが多く、女性としてたくましくしなやかに生きて行きたいという思いと、上海に一度是非行つてみたいと思うようになりました」などの感想が寄せられました。

朗読された二つの作品は、同時に発売された文芸誌『新潮』（四月号）にシリーズで掲載されており、フォトデッセイも『文藝春秋』に掲載される予定です。また、これらの映像や文章は、WEB S I A (<http://blog.google.jp/webasia>)を通して発信されることになっています。

●第五回S I Aの様子は

平成二十年四月十三日（日）放映の「ムーブ 高樹のぶ子が見た上海」【RKB毎日放送】にて紹介されましたが、WEB S I A内の「TV

ドキュメンタリーS I A」でもご覧いただけます。

URL:<http://blog.google.jp/info/webasia/movies.html>

●S I A - DAYは年に二回企画されています。次回は九月二十二日開催で、テーマは「モンゴル」の予定です。



稲盛財団と京セラから 伊都キャンパスへ贈り物

財団法人稲盛財団から「稲盛財団記念館」が、京セラ株式会社から「稲盛フロンティア研究センター奨学寄附金」が、九州大学に寄附されることになり、平成二十年三月十八日（火）に贈呈式が行われました。

記念館と奨学寄附金

「稲盛財団記念館」は、鉄筋コンクリート造の地上四階建て、延べ床面積三、四〇〇平方メートルで、伊都キャンパスに建設されます。

一階には稲盛財団の活動を紹介する「稲盛財団ライブラリー」と、国際的な学術・文化交流の場「稲盛国際ホール」が入る予定です。

二階から四階に入る予定の「稲盛フロンティア研究センター」は、環境、エネルギー、機能性分子、エレクトロニクス材料など次世代の科学技術の理想を自由に追求できる新しいタイプの研究センターとして研究者を国際公募し、その運営には五年

間で三億八千万円の「稲盛フロンティア研究センター奨学寄附金」が活用されます。

今回の寄附は、二〇一一年に百周年を迎えるに当たり、伊都キャンパスに「知の新世紀を拓く」教育研究拠点を構築したいという九州大学の希望に、財団法人稲盛財団と京セラ株式会社が賛同して実現しました。

心を大切にした教育研究を

贈呈式に出席した財団法人稲盛財団の稲盛和夫理事長は、「九州大学には京都賞や財団の運営で日頃からお世話になっており、人と技術の調和、心と技術の調和に貢献する研究機関設立を中心とする九州大学の二十一世紀に向けた構想に共感した」と語りました。

京セラ株式会社の中村昇代表取締役会長は、「梶山総長の、人の心を大切にすることを基本とする研究と人材育成の考え方に賛同して寄附を



「稲盛財団記念館」完成予定図



贈呈式で握手する（左から）中村昇京セラ会長、梶山千里九州大学総長、
稲盛和夫稲盛財団理事長



決めた。稲盛フロンティア研究センターから、ノーベル賞や京都賞受賞者が輩出され、人類の進歩に貢献されることを期待する」と語りました。今回の寄附に対して梶山総長は、「心に触れる贈り物をいただいた。頂戴する記念館と奨学寄附金は、百周年を迎え伊都キャンパスに研究教育拠点を構築したいという私どもの夢を実現するもの。ご期待に添えるような成果を挙げていきたい」と謝辞を述べました。



稲盛国際ホール



エントランスロビー



「稲盛財団記念館」（中央の白い建物）の模型

ミュンヘン大との共同セミナー ― 持続する国際交流へのスキーム作り ―

法学研究院教授 河野 俊行



コメントするミュンヘン大学シェヒ教授（右）

発表を行う小島准教授

密なるミュンヘン大との交流

二〇〇八年三月十、十一日の両日、ミュンヘンのカトリック・アカデミーにおいて、九州大学・ミュンヘン大学共同セミナー「Law and Beyond」が開催された。

九州大学はミュンヘン大学と協定校となつて二十年以上になるが、その交流実績において、法学部・法学府は中心的な役割を果たしてきた。とりわけ西村重雄名誉教授の功績を多としなければならない。また筆者をはじめ複数の教員が授業にでかけ、ミュンヘン大の教員を招聘、学生の相互交流も推し進めてきた。しかし、制度的にミュンヘン大学との交流を継続してゆくためのスキーム作りの必要があつた。というのも、大学の国際交流は通常、きわめて属人的な色彩が強いため、交流を支えてきた方がいなくなると途端に交流が途切れることが多く、一旦途切れると、再開は容易ではないからである。そこで、筆者は、九州大学P&Pの補助を受けて、ミュンヘン大学との交流を継続させられるような制度的な

枠組みを構築しようと試みてきた。種々の試行錯誤を繰り返してきたが、平成十九年度はこの枠組みが確立できた画期的な年であり、それを決定的にしたのが、今回のミュンヘンにおけるセミナーであつた。

多国籍チーム参加による国際セミナー

我々は、大学院生レベルの学生交流が、研究と教育の双方の面から国際交流の実を挙げるものになる、と考えた。また近時の競争的資金は、大学院教育の充実をことのほか強調しており、かかる方向性は時宜になつたものでもある。加えて、事前の研究交流も地ならしとして必要であらうと考えた。そこで、平成十九年七月に福岡で「企業犯罪」に関する国際シンポジウムを開いた後、日本学術振興会の日独交流事業の助成を受けつつ、教員七名、大学院生六名がミュンヘンを訪れて「Law and Beyond」のテーマの下にセミナーを開催した。これが今回の企画である。

この企画の狙いは、法学府の大学院生に国際的な研究発表の機会を創

出すること、属人的ではなく制度的な交流スキームを探り当てること、の二点を大きな目的としていた。その両者は見事に実現できたといつてよい。前者の狙いに関しては、法学府の英語プログラムであるLL.M.コースから三人（中国、タイ、韓国）、研究者コースの日本人大学院生が三人出席した。全員、五十君教授、フエンイック准教授の指導の下に英語でペーパーを書き、発表の準備を進めた。これらの報告は、ミュンヘン側代表者であるシェヒ教授が絶賛する出来栄えとなつた。また、教員七名（英国、モンテネグロ、スロバキア、ベルギーの外国人スタッフ、日本人教員は筆者を含めて三人）全員が報告した。九大からは八力国十三名の国際チームがミュンヘンに出向いたわけであるが、これはセミナーを極めて多角的なものとし、二力国の研究者・学生が集つたものでは得ら

（注）九州大学P&P

「九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト」の略。九州大学として、一定の期間研究費等の重点配分を行い、教育と研究の一層の発展を図ることを目的とする。

ネットアカデミー2とSSO・KID

平成二十年三月から、オンライン英語学習システムであるネットアカデミー2が、サーバの更新を受けるとともに、「スーパースタンドコース」（新TOEICに対応）、「技術英語パワーアップコース」（論文作成に資する訓練）という二つの教材の増強によって進化しました。また、認証方式として、学生教職員ともに全学共通ID（とパスワード）の利用へ変更となりました。初めてお使いになる方も、別のID・パスワードを申請することなく、すぐに学習を開始することができます。

学内外の端末から利用できます。個人でのご利用はもちろん、研究室・講座単位でのご利用もお待ちしております（クラス管理者の設定ができますのでご相談ください）。現在、言語文化基礎科目「英語ⅡB」「英語ⅢB」で受講者によっては補完教材として使用している他、医学府、歯学部、農学部等でも教育に利用されています。

（文責 言語文化研究院准教授 鈴木右文） 詳細は<http://gogaku.kyushu-u.ac.jp>



セミナー冒頭の挨拶をする河野教授（右）

れない研究集会となった。かかる研究集会は他大学の大学院では絶対実現できないものであろう。

大学院生交流をベースにした 交流継続のスキーム

制度的な枠組みとしては、毎年二月にL.L.D.コース（英語による博士コース）の主たる企画として開催しているL.L.D.カンファレンス（これによって我がL.L.D.コースは「魅力ある大学院イニシアチブ」の対象取り組みに選定された）の平成二十年度の会議へミュンヘン大学教員と大学院生を招待し、それ

に引き続いて九州―ミュンヘン共同セミナーを開催すること、その翌年には九大からミュンヘン大に出向いて共同セミナーを開催すること、がいずれも同意された。こうして今後一年おきに訪問しあうスキームを作り上げたと考えている。もともとこのスキームには種々の改善点（たとえばテーマの絞り込み、ペーパーの事前配布時期等）もあり、これから次回の福岡でのセミナーに向けてこれを改善してゆきたい。今回のセミナーは、ミュンヘン側の大学院生にも大きい刺激になったようであり、

今後の展開が楽しみとなってきた。語学の壁、法制度の違い等のために、法律系の大学院生の実質的な国際交流は容易ではない。今回のセミナーは、この困難を突破する可能性を秘めているように思われ、次回福岡で開催するセミナーの準備を早速始めたいと考えている。



セミナー後のレセプションで踊りを披露する大学院生



地質学

FRONT
RUNNER

シリーズ研究

ふろんと
ランナー

清川 昌一

きよかわ

しょういち

理学研究院 地球惑星科学部門 講師



「ふろんとランナー」は、九州大学の研究の最前線を
インタビュで紹介するシリーズです。

シリーズ第八回目は、理学研究院の清川昌一講師に、
芸術工学研究院の土居義岳教授が聞きます。

聞き手 芸術工学研究院 土居義岳 教授

VOL
8

学会発表でも大きな反響を巻き起こした

太古代・原生代の海底断面の復元――

初期地球の海底環境と

初期生物の活動場の解明

人間に例えれば、それ以降が顕生代。

小学生くらいの地球が
何をやっていたかを探る研究

土居 太古代という言葉はあまり耳
慣れないのですが、どのくらい前の
時代ですか。

清川 地球の歴史は冥王代、太古代、
原生代、顕生代と大きく四つに分か
れます。地球は四十五・六億年前に
誕生しましたが、冥王代は当時の証
拠が何にもない時代、太古代は地球
が大陸を作っていく時代で二十五億
年くらい前。次に大きな生物が出て
くる時代が原生代で地球の安定化を

示す時代です。それ以降が顕生代。
古生代、中生代、新生代、恐竜とか
アンモナイトが出てくる時代で、学
校でも習いますよね。私がやってい
る太古代は、地球を四十五歳の人間
に例えると小学校くらい。地球が小
学生時代に、どんなことやっていた
のかを探っています。

土居 私の専門は西洋建築史で、フ
ランスの十七、十八世紀の古典主義
をやっています。同じ昔のことでも、
私の場合は二百年、三百年前の昔。
清川先生は億年単位。研究者として
の独特の境地みたいなものがきつと
あるだろうと、それも何おうと思っ



三十二億年前の熱水活動
Dixon Island Formation, Western Australia

て来ました。

清川 宇宙ができて百三十、百五十億年と言われていますが、宇宙や地球の歴史も十七世紀の話も一本の線上にあります。違うのは顕微鏡の拡大率。私がターゲットとするものはゼロが二つくらい違うから、電子顕微鏡が必要かもしれない。でも、十倍や四十倍の顕微鏡で見える時代もあります。自分がどのくらいの倍率をもっているかで、時代というものはわかりやすくなる。どの倍率が得意か、ですよ。

土居 では、対象とする年数の幅はどのくらいですか。我々だと、二百年前の十年間、二十年間ということ調べているくらいですが。先生は太古代の全部ですか？

清川 私たちは今、三十二億年前の地層をやっていますが、古い歴史を調べる時には証拠は限られます。そんな

昔の石が地球表層の状態を保存して残っているのはサウスアフリカとオーストラリアのピルバラしかありません。でも、三十二億年前でもやはり一日、一カ月、一年という単位は存在するんですよ。

土居 これから先、別な場所が見つかる可能性は？

清川 まだあるかもしれません。カナダの奥地とか。テクノロジーの進歩でどんどん古い証拠が出てきていて、四十四億年前くらいのジルコンという鉱物が見つかったりもしています。

地質学者垂涎！ 鹿児島島の硫黄島という宝島

土居 建築だと、実測技術がここ十年くらいで格段に飛躍しているのですが、地質学でもそういったテクノロジーの影響はありますか？

清川 やはりサイエンスですから、テクノロジーの進歩のたびに大ブレイクが起っています。質量分析計の開発で、三十二億年前でも高い精度で年代が測定できるようになりました。近年そうした新しい分析とか

シミュレーションが脚光を浴びがちですが、逆に、もっとオーソドックスに実際の地球はどういうものかを自分の目できっちり確かめ、何が起っているかを紐解いてやろうというのを私はスタンスとしています。

土居 前述のオーストラリア・ピルバラでの研究が清川先生の真骨頂だと大きく評価されています。地質調査のために現地で半年間のテント暮らしをされたとか。

清川 野外における地質調査は古典的に見えますが、もっとも大切な基礎データの採取だと考えています。

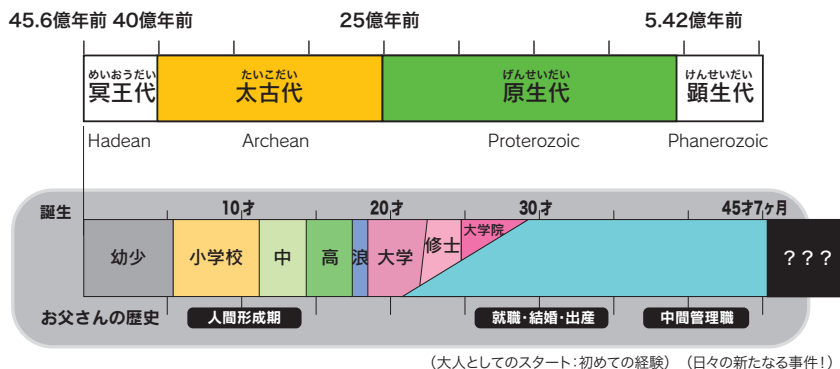
土居 私の興味を引いたのが、二十数億年前に鉄鉱層が形成されたということ。鉄は建築を造るから特に私には面白いのですが。

清川 太古代後期二十七〜二十五億年前にかけて地球最大の表層転換があったことがわかっていて、それまで酸素のなかった地球が急激に酸化

地球の歴史



27億年前のストロマトライト層（バクテリアマット）
西オーストラリア ピルバラ タンピアーナ層より



(大人としてのスタート：初めての経験) (日々の新たな事件！)



サツマ硫黄島、長浜湾。
オレンジ色に見える部分が、鉄酸化物。
(海底は50度ぐらいのところがある)

きます。その最大量の痕跡が二十五億年くらいの時代に残っているのですが、もうひとつのポイントは、鉄の地層を求めて野外へ行くと、鉄の沈殿物の下には真っ黒い地層が溜まっているということ。石の中で黒というのは有機物、炭素で、それは何らかの形の生物が沈殿しているということです。ピルバラの縞状鉄鉱層の下にも五十mから百mに達する、炭素濃度が多いところで十七%というほど炭のような地層があり、生物が発生して酸素を出し、鉄が沈殿した可能性を示唆しています。



聞き手：土居義岳教授

土居 ひょっとして鉄も石油や石炭と同じく化石由来だということですか。

清川 そうですね。その黒い地層のさらに下を見ると、熱水が吹いていたところがいっぱいある。海底の熱水が吹いている所は、現在ではエビや貝がいたりして、生物が繁茂する場所。その上に鉄が溜まっているということとは、熱水の活動もすごく大事ということなのです。私自身は熱水に関係しない調査をしてきたのですが、温泉が好きだったので、九州に赴任してからはいつか温泉にも浸かりながら研究をやるうと火山地域を転々とした。その時に鹿児島島の硫黄島にも行ったのですが、あそこは港が茶褐色で泥水状態なのです。この茶色って何だろうと掘り返して

みたら、実にそこにも鉄がいっぱい溜まっていたのです。

土居 すごい発見じゃないですか。

清川 貴重な調査地であることは間違いないですね。現在進行形の鉄の沈殿と、昔の対比などを通して二十五億年前の鉄の沈殿のメカニズムも明らかになるのじゃないかと考えています。硫黄島は鉄の沈殿がわずかに海深5mにあるのもこたえられませんが、私はスキューバダイビングの免許を持っていて、5mだと自分で潜れますから。潜ってみたら、熱水が吹き上がっているチムニー（煙突）を発見。世界の深海底には熱水のチムニーがあるとどこにいてもあって、生物のコロニーになっているという発表が一世を風靡したのですが、それと同じようなのが海深5mの硫黄島にもあるのです！来週、また三島村の村長さんと話をするために島へ行きます。

土居 鉄は地球にずっと昔から何らかの形であって、凝縮されて固まったものだとばかり思っていました。

清川 確かに地球の核部は八割が鉄でできておりまして、地球の全体でも二十八%がFeを含む物質からなります。そこから地質学的なイベントをへて、我々が使えるシステムになっているのです。それを野外の石が積み重なっているパターンから読み取れるというのが面白いのです。また、海洋ではものすごく堆積物が早く溜まる場所でも千年で10cm、ちよつと深海になると千年で3mmと時間がかかり、それが過去の鉄の沈殿ペースじゃないかなと思っていたところに、十年くらいで1・5mくらいの鉄が沈殿している硫黄島を見ると、全く新しい視点、考え方が開けてきます。

地質学は古いことを基礎に 未来を予測する学問

土居 山に登ったり、海に潜ったり、清川先生のフィールドワークを見ていると、まさにハンターの趣ですが、小さい頃はどんな子どもだったのですか。

清川 育ったのは山の中も山の中で、小学校のクラスが二十六人。同級生全員のじいちゃん、ばあちゃんまで知っているような所で大きくなりました。休みの日は「今日はこの山を捜査しよう」とか「池の周囲をぐるっと回ろう」とか遊びといえば探検でした。今も時々、みんなと会

って飲むのですが、「小学校の時と同じことをやっているね」と笑われます。子どもの頃、当たり前のように山や崖に登っていたのがうまく仕事に活かせた感じですね。

土居 私自身もわりと山の中で育ちましたので、共感を持ちますね。

清川 私の家は香川県にあり、ある時、道路の拡大で山が切り崩されマツタケが採れなくなっって悔しい思いをしたのですが、道路工事で崖にすぐきれいな縞々が出てきた。白亜紀の地層だったのですが、この縞々って何だ。どんなメカニズムでできたのかという疑問を持ったことも地質学に進むきっかけになったような気がします。小さい頃から物を見るのが好き。自分の目で観察したい、自分で確かめないと気がすまないという傾向は強く持っていたと思います。物を観察する能力って今の偏差値教育では取りこぼされていますが大切で、そういう能力を持っている人も評価され、将来登用されるような大学教育にするべきじゃないかという気がちよつとしています。

土居 教育面においても、研究の面白さを伝えながら、ドクターコースの学生や大学院学生を導いていっ

しゃいますね。

清川 みんなと島に行っって、夕暮れの夕日ではなく、夕日の当たる地層を見て、「きれいだね」と感動し始めると、私としては「やった」と思えますね。私がやっているのは古典的な地質学です。でも、古いテクニクをきちんと理解して、そこから新しい分野に分け入っていくのが、自分としてはカッコいいかなと(笑)。半年テント暮らしをする一方で、海底掘削船でハイテクノロジを駆使した研究もできる訳ですし。

土居 これからの展望、研究の方向性をお聞かせください。

清川 オーストラリアで新鮮な石を採ったのも、熱水系と表層、生物の関連を知りたいため。ここ一、二年はそれを徹底的にやっていきます。加えて硫黄島ですね。現代の鉄と過去の鉄の沈殿の仕方をそれぞれきち

んと見ていきたいと考えています。

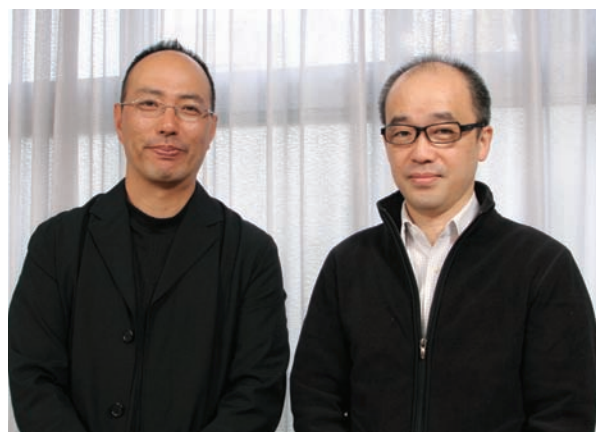
それがたぶん環境問題においてもすぐ大事ななっっていくと思うのです。なぜなら、地質学は古いことばかりやるのじゃなくて、古いことを基礎に未来を予測する学問だから。地球温暖化なども私たちの範疇ですよ。

土居 最後に高校生や九州大学の学生にメッセージをいただければ。

清川 日本の学生って大学に入るとホッとするじゃないですか。でも、大学の名前だけあつたらそれでいいという時代はもう終わっていると思うのです。大学で何かを学び取り、勝ち取り、それを使って社会に貢献できるような人になっってほしいですよ。大学は人生の休息の時間だと言われ、企業の人も「大学に入っってサークルやっって、人間関係を築けていたら、企業に入っってもやれますよ」と言うのですが、それは言っっている人が当時それで通用したからというだけ。それではもうだめなんじゃないかという気がしますね。他の国を見てみると、学生はもつとギラギラしています。日本が外国に負けている根本原因じゃないでしょうか。もちろん、大学でサークルを一生懸命やっっている人は、切り替えるべき時



清川昌一講師



左より、清川昌一講師と、聞き手の土居義岳教授(右)。

には切り替えて、一生懸命やる。それは僕も認めます。ただ、せっかくだから、ちゃんと学んでほしいのです。また教員として私的には、特に九大などの帝大系は日本を支える学生なのだから、しっかりケアして、日本を支える人材にして世に出すというのは使命だと思います。

清川昌一 講師 プロフィール

一九六三年まれ。高知大学・理学部卒業。筑波大学大学院・理工学研究科修士課程修了、東京大学大学院・理学研究科博士課程修了。一九九三年、東京大学で博士(理学)の学位取得。同年日本学術振興会・特別研究員(東大海洋研究所)、一九九五〜九七年コネチカット州立大学・研究員、一九九八年国立科学博物館・特別研究員、一九九九年宇都宮大学非常勤講師を経て、二〇〇一年から現職。

建設が進む伊都新キャンパスの新施設を紹介するシリーズ

伊都キャンパス施設探訪

工学系の伊都キャンパスへの移転に伴い、現在様々な施設の整備が進んでいます。今回から六回のシリーズでこれらの施設を紹介していきます。



Welcome to ITO Campus

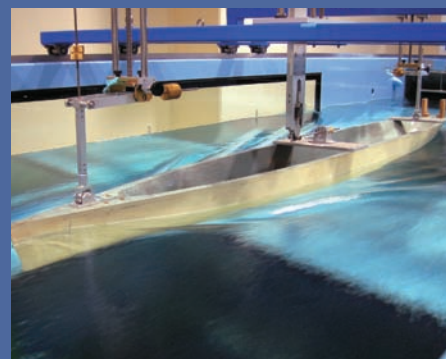
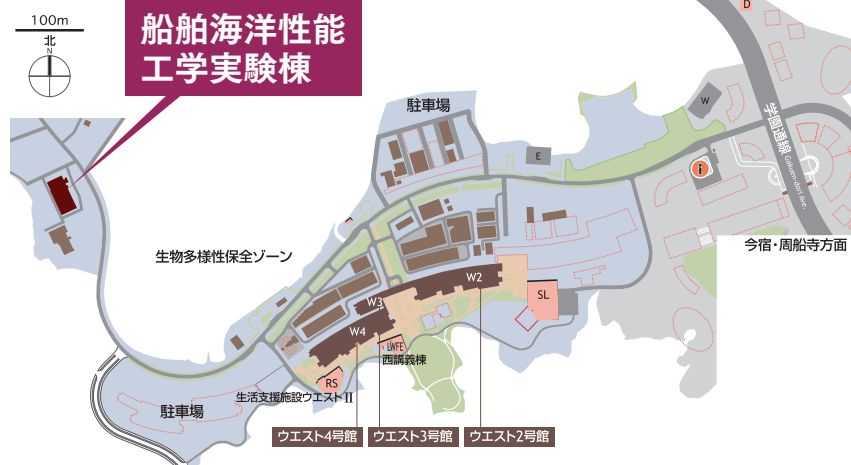
海洋システム工学部門

船舶海洋性能工学実験棟

第一回の今回は、「高速回流水槽」、「船舶運動性能試験水槽」を紹介します。これらは、箱崎キャンパスに設置されていた船型試験水槽（長さ一一・八m、幅二・六七m、深さ三・五m）と旧船舶運動性能試験水槽（長さ二十八m、幅二十五m、深さ一・八m）の代替設備として、海洋システム工学部門船舶海洋性能工学実験棟（EN80）内に設置されたものです。



エリア案内図
Area Map



▲高速回流水槽における模型試験の様子

◀高速回流水槽の観測部

船舶海洋性能工学実験棟 EN80



高速回流水槽

回流水槽とは、垂直に設置された閉管路内の水をインペラで循環させることにより流速を発生させ、観測部として閉管路上部の一部に設けられた開口部に模型船などの実験対象となる物体を固定して、物体まわりの流場および物体に働く流体力の計測を行う実験設備です。回流水槽においては、船の運航経費と密接な関係にある船の抵抗・推進性能に関する実験のみならず、多様な流体実験が実施可能であり、物体まわりの流れの観察が容易に行えるため、流体現象理解のための教育に適しています。

今回設置された高速回流水槽は、長さ約二十一m、幅約三m、高さ約七m（観測部は長さ六m、幅二m、水深一m）であり、高速船の研究にも対応できるように、最大流速を国内最高レベルの三・三m/secと設定しています。

船舶運動性能試験水槽

船舶運動性能試験水槽とは、船舶や海洋構造物等の浮体の運動に関する実験を実施するための実験設備です。模型曳引車により船舶や浮体構造物の模型を曳引することにより、運動中の浮体に作用する流体力の計測を実施したり、水槽内で模型を自由に運動させることにより、静水中や波浪中における浮体の運動の計測を行うことが可能であるため、浮体の運動メカニズム理解のための教育に適しています。

今回設置された船舶運動性能試験水槽は、水槽本体と模型曳引車、プランジャー型造波装置によって構成されています。水槽本体は長さ三十八・八m、幅二十四・四m、水深二mです。水槽底部を高精度で平坦に仕上げたことにより、世界的にも数少ない浅水域を対象とした浮体運動の実験が実施可能な水槽となっています。



▲プランジャー型造波装置による造波の様子



▶船舶運動性能試験水槽本体と
模型曳引車

大学評価の拠点を

目指して 対談

大学評価情報室

大学評価は、国立大学の経営に不可欠なものです。九州大学の大学評価情報室は、その先進的な体制と取組が全国的にも高く評価されています。大学評価や大学評価情報室の取組について、大学評価情報室の落合室長に、数理学研究院の長藤准教授が聞きます。



大学評価とは？

長藤 大学評価について関心はありますが、詳しいことは存じません。大学評価とは何か、というところから教えていただけませんか。
落合 大学評価は、大学の諸活動の質の改善と向上、および社会的な説明責任を果たすことが目的であって、評価自体が目的ではありません。

現在の風潮では、日常からの脱皮、つまり、改善・改革だけが取り上げられ、日常の教育研究活動が軽視されがちですが、しっかりとした日常の活動なくして真の改善・改革はありえないと思います。大学評価は、この日常活動と日常からの脱皮という一見相反する二つを統合的に発展させるための手段といえます。

また、特に、教育に関しては、学生は自分たちが学んでいる教育の質はどのようなものかを知り、安心したいと思うはずです。先生方も学生の立場を意識して日頃の

教育活動について自己点検をしていただきたいと思います。

長藤 例えば私の専門分野では、理論的に厳密な解析をしているという自信が、計算機での計算結果の質を保証している、と言える所ですが、学生の安心に関しては、まず教員自身が自信を持つこと、つまり、自大学の一員であること及び自分の教育研究についての誇りを持つことも重要ではないでしょうか。

落合 しっかりとした日常的な教育研究とその改善・向上の積み重ねが、教員の愛校心や誇りを醸成し、ひいては、学生の安心につながると思います。ぜひ、大学評価を活用して教育研究の改善を進めてほしいと思います。

大学評価の仕組みとは？

長藤 大学評価には、法人評価と認証評価がありますが、どのような違いがありますか。

落合 法人評価は、国立大学法人が自ら設定した目標や計画の達成



落合 英俊 大学評価情報室長
副学長・総長特別顧問

度について国が評価するものです。その結果は国からの運営費交付金の配分に反映されることになっていきます。

他方、認証評価は、認証評価機関が定めた大学評価基準に基づいて大学の教育研究の質を評価するものです。九州大学は、平成十九年度に、大学評価学位授与機構から、「大学評価基準を満たしている」という評価を受けました。

九州大学としては、さらに、世界最先端の教育研究拠点を目指して、教育研究の質の向上と個性の伸張に努めています。

長藤 大学評価は非常に重要とは思いますが、教員としては、本来の教育・研究に加え、限られた時間の中で様々な業務へ従事する中



長藤 かおり 准教授
九州大学大学院数理学研究院准教授／
科学技術振興機構 さきがけ研究者

での負担感も否定できません。

落合 大学も国からお金をもらっている以上、諸活動を社会に説明する責任がありますので、大学評価がなくなることはありません。

コストに見合うパフォーマンスを生み出す工夫と努力が必要であり、そのためには、大学評価を義務ではなく、手段として活用する視点が重要です。もちろん、大学評価情報室でも、先生方の負担感をできるだけ少なくするための取組を続けていきます。

大学評価情報室の取組とは？

長藤 これまで、大学評価情報室の名前を耳にしたことはありませんが、正直なところ、取組の内容についてはほとんど存じません。

落合 大学評価情報室の活動は、学内では十分に知られていないようです。全国の大学から多くの視察が来るなど、先進的な体制と取組が高く評価されています。

その大きな特徴は、専任の教員が配置され、事務局組織との連携体制をうまく機能させ、先進的で高度な評価活動を行っていることです。また、全国の大学との連携も特徴のひとつで、昨年度から全国の大学に呼びかけて、情報交換や評価手法の開発等を目的とした大学評価担当者集会を開催しています。さらに、教員の教育研究活動のデータベースである「九州大学研究者情報」や、大学経営の情報組織的に収集・分析したデータベースである「マネジメント情報」を公開しています（注）。

長藤 私が大学評価に関心を持ったきっかけのひとつは、私個人のホームページの訪問者のほとんどが「研究者情報」を経由していることです。

落合 私の研究室でも、有力企業

から「研究者情報」を経由して学生採用の申し入れがありました。現在、「研究者情報」の毎月の訪問者数は二十万件を超えています。また、グーグルで九州大学の教員名を検索すると、「研究者情報」が九十%以上の確率でトップに出ます。このように、「研究者情報」は九州大学の活動情報を発信する有力な手段になっていますので、先生方もリンクを張る等、もっと活用していただきたいと思います。

大学評価情報室は、これらの取組を通じて、対内的には必要ときに必要な情報を提供する先生方の相談相手、対外的には大学評価の拠点を目指して活動しています。

長藤 本日は、ありがとうございます。

落合 今後とも、大学評価情報室の取組へのご理解とご支援をお願いいたします。

（注）
取組の詳細は九州大学の大学評価に関するHPを参照下さい。
<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/hyoka-home/>

桜ほころぶ日 卒業式

桜の開花宣言が出されたばかりの平成二十年三月二十五日（火）、学部と大学院の学位記授与式（卒業式）がそれぞれ催され、学部二、五九〇名（うち女子七九三名）、大学院二、二四二名（うち女子五二四名）が巣立ちました。

学部卒業式

学部（学士）の学位記授与式では、十一の学部と二十一世紀プログラム



人の努力の積み重ねと目的意識を持った思慮深い行動が、やがて国際的に活躍できるリーダーとして地球上に人間性豊かな社会を実現させることにつながる」と告辞を述べました。

来賓として出席したOTTO株式会社代表取締役会長の重淵雅敏氏（昭和三十三年工学部卒）は、祝辞の中で、自らの経験から「自分らしいやり方で悔いのないように仕事をする、大所高所から俯瞰的に自分のやっていることを見る、相手の立場に立つて考えることで人間関係を良くする」ことをアドバイスし、「現代が直面する問題は多々あるが、その解決は二十一世紀に活躍する皆さんの知恵と努力に任せる他ない」と後輩たちを激励しました。

これに対して、学士総代の湯田孝太朗さん（教育学部）は、「思い出深い六本松や箱崎の校舎はいずれなくなるでしょうが、大学生活で得た知識や経験、そして仲間、間違いなく一生の財産です」と答辞を述べました。

大学院卒業式

大学院（修士・専門職・博士）の

学位記授与式では、修士総代の井手義和さん（経済学府）、専門職総代の東泰雄さん（法務学府実務法学専攻）、博士総代の友清淳さん（歯学府）に学位記が授与されました。

梶山総長は、「最高学府の優れた教育・研究環境で高度な専門知識を身につけた皆さんは、将来の社会のリーダーと期待されている。今後、皆さんに求められるものは、皆さんが生み出す科学・技術が、人類を含めた全生物にとつて真の幸福をもたらすものかどうか常に反芻を怠らない姿勢と倫理観です」と告辞を述べました。

また来賓として、米国マサチューセッツ大学のジャック・マーティン・ウィルソン総長（President）も出席し、「今後の変化に適応し、互いに知識を共有し、そして思慮深く、見極め、正義感のあるリーダーとなる必要がある。新たな知識が獲得され応用されるプロセスについて先入観に陥ることなく自由な発想を抱き続けてほしい」と祝辞を述べました。

今回、会場が、箱崎キャンパスの五十周年記念講堂から市内の福岡国際センターにかわったことで、多くの家族や関係者も式に列席しました。



答辞を述べる学士総代の湯田孝太朗さん

満開の桜の中 入学式

満開の桜花ひらく、平成二十年四月八日（火）、平成二十年度入学式が福岡市の福岡国際センターで催され、十一の学部と二十一世紀プログラムの計二、六七五名（うち、女子学生七十一名）が新たに九州大学生となりました。

梶山総長は「科学・技術の進展と有効利用が、地球上で最も平和な武器。大学の勉強の最終目標は、社会や人類への貢献だと言っても過言ではない」「若い日はあつという間に過ぎ去ることを自覚して、一日一日を有効に過ごし、九州大学生活をより多い有意義なものにしてほしい」と告辞を述べました。



続いて、新入生総代の川畑陽子さん（教育学部）が、「私達は本学教育の趣旨を体して、自立の精神を重んじ、学術を極めると共に自ら人格の陶冶につとめ、社会の期待にそつことを誓います」と誓詞を朗読しました。

本年度は、インド工科大学ボンベイ校のアショク・ミスラ校長が来賓として列席して、「技術は価値創造への道」として、グローバル化によつて頭脳労働者を生み出す高等教育機関が世界水準の教育を行う必要に迫られている今日の現状に言及し、



誓詞を朗読する新入生総代の川畑陽子さん

「ぜひよき世界市民となつて、それぞれに選択した職業で活躍してください」と祝辞を述べられ、また来賓として、卒業後三十年の五名の同窓生も招かれ、新入生の入学を祝福しました。

式の後、会場を出て先輩達の祝福を受けた新入生たちは、資料の入ったＵＩファイルボックス（芸術工学の学生も参加するＵＩプロジェクトチームがデザイン）を提げて、満開の桜が待つ所属キャンパスに向かいました。

なお、式に先立ち、九大ファイルハーマニーオーケストラが歓迎の演奏を行いました。



会場入口で資料の入ったＵＩファイルボックスを手にする新入生



第一回・旧帝展 「地域の枠を越えた展覧会」



平成二十年三月十二日（水）三月十六日（日）の五日間、横浜の神奈川県民ホールにて旧帝展が開かれました。旧帝展とは東京大学書道研究会・京都大学書道部・大阪大学書道研究会・九州大学書道部の四団体による合同書展で今回初の試みです。作品数は約九十点で、九大は四十一点の作品を出品しました。

展覧会当日四大学の作品が並び光景を目にした時に感じたことは各大学の書道に対する熱意と学生らしい瑞々しさでした。展覧会終了後の話し合いでは「各大学の地域の枠を越えて開催される書展のすばらしさをもっと多くの人に伝えたい。」「大変収穫のある書展だったから継続したい。」との声があり二〇〇九年の夏ごろ次の旧帝展を開くことが決まりました。

九州大学書道部部长

工学部三年 寺田 充伸

（財）恵愛団が病院前に宿泊施設

九州大学病院の入院患者さんと家族のために、病院の隣接地に（財）恵愛団が宿泊施設を建設することになり平成二十年三月二十六日（水）、地鎮祭が行われました。

恵愛団は本学医学部と附属病院に医学研究を奨励助成し、附属病院の患者さんの入院サポートなどの活動が続ける財団法人で、明治四十四年に当時の九州帝国大学総長山川健次郎博士の寄付金によって設立された団体です。

今回の建物は家族だけでなく一時外泊の患者さんの要望にも応え、二室をバリアフリーにして車椅子が利用できるよう配慮、プライバシーを重視した個室の他に、患者さんを支える家族同士のコミュニケーションも図れるようコミュニケーションルーム等を設けるなど、設計の段階から患者さんの「家族の会」の声も取り入れています。

建物は鉄筋コンクリート十階建。一階は貸店舗、二、三階の計七室を、家族向けに一泊二千元程度で提供する予定です。四十階は看護師等、病院職員のための賃貸住宅。市内には同様の目的のためにボランティアが運営する十三室がありますが慢性的に不足。しかも病院から離れているため、多くの家族は周辺のウィークリーマンションやビジネスホテルを利用し、入院が長期化すると宿泊費が重い負担になっています。



平成21年3月竣工予定図

福岡女子大学、 西南学院大学と連携協定

平成二十年四月十一日（金）、九州大学、福岡女子大学、西南学院大学の三大学は、連携協力に関する基本協定書に調印しました。

これまでも様々な形で連携してきた三大学ですが、「教育研究活動の一層の充実と向上を図り、わが国はもとより、アジアをはじめとする世界の学術の発展と有為な人材の育成に寄与するとともに、その知的成果を基に地域社会に貢献すること」を目的とする今回の協定締結により、これまで継続してきた交流の一層の促進に加えて、今後は「知財セミナー等の共同開催」「単位互換」「外部資金共同申請」「シンポジウム等共同開催」「福岡ー釜山大学間コンソーシアム」などの産学連携、教育、研究、国際交流などの多岐にわたる連携の展開が期待されます。



調印後に握手を交わす（左より）福岡女子大学 高木 誠学長、九州大学 梶山 千里総長、西南学院大学 G.W.パークレー学長

総合研究博物館 常設展示室がオープン

平成二十年五月九日（土）、旧工学部本館三階に総合研究博物館の常設展示室がオープンしました。

九州大学は、国内の大学で最大の七四〇万点超の学術標本を有していますが、この常設展示室には

本学の貴重な標本類のうち、考古資料など二百点のほか、三十点余の生きた植物、魚類を展示しています。

オープンに先立ち、五月八日（金）には、梶山総長を迎え、オープニングセレモニーを行いました。

セレモニーでは多田内館長のあいさつに引き続き、梶山総長が「多くの方々に常設展示室を訪れていただき、大きな感動を与える場にしていただきたい」と祝辞を述べ、常設展示室のオープンを祝いました。

常設展示室の開館時間は、平日の午前十時から午後十六時三十分までですが、団体からの観覧申し込みがあった場合には、期日・時間を定めて開館することも可能です。



油症の診療と研究の拠点開設

平成二十年五月八日（木）、九州大学病院に設置された「油症ダイオキシン研究診療センター」の開設記念式典が催されました。

昭和四十三年（一九六八年）に発生した油症は、人類が経口によりPCB類やダイオキシン類を摂取したことによって生じた世界でも希有な複合中毒で、発生から四十年を経た現在も、多くの患者さんが倦怠感や皮膚症状、呼吸器症状、神経症状などに悩まされています。

「油症ダイオキシン研究診療センター」は、その診療、

新たな治療法の開発、油症そのものの解明などを目的に、古江増隆医学研究院教授をセンター長として、本年四月に九州大学病院に設置されました。今後、全国油症治療研究班や長崎大学、患者さんのかかりつけ病院などと連携して、治療や研究を進めていきます。

式典では、久保千春九州大学病院長の式辞、梶山千里九州大学総長の挨拶に続き、坂口力元厚生労働大臣、永山賀久文部科学省国立大学法人支援課長、松田将厚生労働省食品安全部企画情報課長、麻生渡福岡県知事（武居副知事代読）が祝辞を述べました。



祝辞を述べる坂口力元厚生労働大臣



挨拶を述べる久保千春九州大学病院長

九州大学応用力学研究所 RIAMフォーラム2008

【日時】 2008年6月6日（金）9時30分から17時30分まで

【場所】 九州大学筑紫地区 総合研究棟（C-CUBE）1F 筑紫ホール

全国共同利用研究所としての応用力学研究所の昨年一年間の活動を報告するために、研究報告会「RIAMフォーラム2008」を六月六日（金）に、総合研究棟（筑紫地区）で開催します。

内容は、応用力学研究所の研究活動の概要、主な研究成果、共同研究の成果についての報告、今年は特別セッションとして「国境を越える大気海洋環境」を開催します。

地球を取り巻いている大気と海洋は本来、人間の都合で設定された国境とは無関係に広く広がっています。そのことは一般には特に意識されることもありませんでした。ところが近年、人間活動の大規模化に伴って、大気海洋環境がひとつながりのものであること、必然的に国境を越えて広がっていることを意識せざるを得ない状況になっています。

応用力学研究所では、様々なプロジェクトを通して、国内外のパートナーとともに特に東アジアの大気海洋環境の問題に取り組んでいます。今回のRIAMフォーラムでは、今何がわかっていて、今後何が必要なのか、最近の研究成果に基づいた議論を行います。応用力学研究所の研究活動の報告は、この研究会の他に隔年発行の研究所要覧やホームページ等に掲載されています。また、共同研究については、更に共同研究報告書と研究集会報告書が出版されますので、あわせてご覧いただければ幸いです。

プログラム

9:30～10:00 応力研の現状と将来構想
および全国共同利用の現状

10:00～11:40 全国共同利用研究の成果

11:40～12:30 ポスターセッション

13:30～17:30 「国境を越える大気海洋環境」

13:30～14:45

1. 大気経路の越境物質

14:55～16:10

2. 海流が運ぶもの

16:20～17:10

3. 海流によって運ばれる熱が
支配する気候・気象

17:10～17:30

総合討論

全国共同利用研究所
九州大学応用力学研究所
RIAMフォーラム2008



2008年6月6日 金

9:30～10:00 応力研の現状と将来構想および全国共同利用の現状 報告者 菅野 浩司 10:00～11:40 全国共同利用研究の成果から 報告者 熊谷 浩二(大気化学研究センター) 海野 浩二(大気化学研究センター) 海野 浩二(大気化学研究センター) 海野 浩二(大気化学研究センター) 11:40～12:30 ポスターセッション	13:30～14:45 1. 大気経路の越境物質 報告者 伊藤 隆(海洋大気化学部門) / 三上 正男(気象研究所) / 佐藤 隆(気象研究所) 14:55～16:10 2. 海流が運ぶもの 報告者 藤田 大(海洋大気化学部門) / 松岡 雅之(気象研究所) / 山本 隆(気象研究所) / 山本 隆(気象研究所) 16:20～17:10 3. 海流によって運ばれる熱が支配する気候・気象 報告者 山本 隆(気象研究所) / 山本 隆(気象研究所) 17:10～17:30 総合討論
---	---

日 時 / 2008年6月6日(金) 9:30～17:30
会 場 / 九州大学筑紫地区総合研究棟(C-CUBE) 1階 筑紫ホール
問合せ先 / 九州大学応用力学研究所事務局 福岡県春日市春日公園6丁目1番地 ☎(092) 583-7702

【お問い合わせ先】 九州大学筑紫地区事務局庶務課 TEL (092) 583-7504

健全で快適なキャンパス環境をめざして

セクシュアル・ハラスメント等の相談件数等

平成十九年度の九州大学におけるセクシュアル・ハラスメント等の相談件数等は、次のとおりでした。

- ・相談窓口の相談員に相談があった件数は、二十八件です。
- ・そのうち正式な苦情申立てのあった件数は、十件です。
- ・懲戒処分を行った事案はありません。

セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワーハラスメントなど人としての尊厳を侵害する行為は、決して許されません。

一人一人がお互いの人格を尊重するとともに、「相手の嫌がることは言わない、行わない」という人としてのマナーを守りましょう。

健全で快適なキャンパス環境を実現するため、九州大学は、これらの問題に対して、毅然とした態度で臨みます。

セクシュアル・ハラスメント等相談員

本学ではセクシュアル・ハラスメント等に関する相談や苦情の申出に対応するため、学内に相談員を配置しています。相談員の氏名や手続きの流れ等は以下のホームページに掲載しています。

なお、相談者の所属部局等などに関係なく、どの相談員にでも相談することができます。相談したことによるあなたのプライバシーは必ず守られますので、一人で悩まず、まずは誰かに相談してみてください。

本学ホームページ

TOP>総合情報>セクシュアル・ハラスメント等の防止・対策

TOP>学生の皆様>生活支援>セクシュアル・ハラスメント等の防止・対策

TOP>教職員>人事・就業・公募・セクハラ等防止>セクシュアル・ハラスメント等の防止・対策

URL <http://www.kyushu-u.ac.jp/university/sekuhara/index.html>

セクシュアル・ハラスメント等

防止啓発のための資料をホームページに掲載しています

セクシュアル・ハラスメント等に関する防止啓発のための冊子「心の傷 あなたには見えますか？」のPDF版をホームページに掲載しています。セクシュアル・ハラスメント等に関するQ&Aなどをわかりやすく記載していますので、加害者にならないためにも、また、被害者になっていないためにもぜひ参考にしてください。

(総務部職場環境室)



難病医療専門員による難病患者のための

難病相談ガイドブック

編 者：吉良 潤一（きら じゅんいち）

九州大学大学院医学研究院教授

発 行：九州大学出版会（2008年1月刊、2,400円）

こんな本
出しました

本書は、我が国で初の難病患者・家族のための難病相談ガイドブックです。難病医療専門員を対象にして書かれています。入転院相談のみならず、各種医療・在宅療養相談、遺伝相談、社会資源の活用やネットワークの作り方など、広く難病患者の療養に関わる職種の方々や行政関係者にとっても有用な情報が盛り込まれています。看護、福祉を目指す学生にも最適な教科書としてお勧めです。

著者から一言



歴史文化ライブラリー 252

骨が語る古代の家族 [親族と社会]

著 者：田中 良之（たなか よしゆき）

九州大学大学院比較社会文化研究院教授

発 行：吉川弘文館（2008年3月刊、1,785円）



著者から一言

筆者は、これまで遺跡の状況と出土人骨の遺伝性から親族関係を研究してきた。その成果は『古墳時代親族構造の研究』（柏書房、一九九五年）として出版した。本書は、その後の成果を加え、縄文時代から古代国家成立までの親族・家族と社会の変遷を一般の人々にもわかりやすく記したものである。また、本書を書くにあたっては、親族だけでなく各時代の社会像も理解できるよう腐心した。研究者だけでなく、社会科の先生方、考古学や歴史に関心をもつ中高生に広く読んでいただけるよう願っているが、すでに朝日新聞に書評が掲載されるなど、一般書としても関心をもたれているので、目的は達しそうである。九大の学生諸君にもぜひご一読願いたいものである。



九大生が案内する

世界のキャンパス



St. Georgeキャンパスにある University College



カナダ

University of Toronto

交換留学先

トロント大学

人間環境学府 人間共生システム専攻 博士後期課程 3年

寺坂 明子

てらさか あきこ

私はトロント大学にあるOntario Institute for Studies in Educationの学校・児童臨床心理学プログラムで勉強する機会をいただいた。授業の内容はどれも非常に刺激的で、日本である程度専門的な教育を受けてきたつもりでいたが、目から鱗が落ちるような感覚をしばしば味わった。また、トロント大学のデータベースは非常に充実しており、ほとんどの文献がダウンロードできるなど、研究には申し分ない環境であった。勉強に疲れたときは、ジムで身体を動かしたり、街を散歩したりして過ごした。

学内には古い建物が多く、私が住んでいた寮も築百二十年の非常に趣のある建物だった。神学部の寮であったため一階には講義室や図書室があり、朝遅く起きて食堂に行くと、授業にきた学生に鉢合わせてよく気恥ずかしい思いをした。寮生はすべて大学院生で、政治学、機械工学、歯学、音楽、教育、医療科学、宗教学など、さまざまな分野で学ぶ学生と交流できたのも貴重な体験であった。年に数回フォーマルなディナーやダンスパーティーがあり、そのときは普段の食堂が高級レストランに変身し、ホールにはDJが呼ばれ、いつもと違う雰囲気を楽しむことができた。

冬はマイナス二十度にまでなるトロント。外出には覚悟が必要だが、屋内はどこも暖かいため不便さを感じることは全くない。留学生向けに「冬の楽しみ方」という講座まであり、この寒い冬もトロントの魅力のひとつなのだと感じた。

大学情報

一八二七年に設立されたカナダ最大の総合大学。三つのキャンパスに七万人を超える学生が在籍する。カナダの主要な研究機関として、これまで十名のノーベル賞受賞者を輩出している。研究分野は多岐に渡り、特に医療、工学、教育などの分野で評価が高い。四十二の分野別図書館を有し、中心となるRobarts Libraryは北米でも有数の蔵書数を誇る。また、多文化都市トロントにふさわしく、世界中から教官、学生が集まっており、実に学生の二割近くが留学生である。

トロントのダウンタウンに位置するSt. Georgeキャンパスには、築百二十〜百六十年という古い英国風建築が数多く残されており、今も講義棟や寮、学生のための施設として使用されている。映画『赤毛のアン』の撮影に使われたこともあり、多くの人々が訪れる観光スポットでもある。周辺には多くのエスニックタウンがあり、さまざまな文化を感じることができる。



友人が住んでいた寮主催のパーティーにて。左から2番目が筆者。



サン・ホアキンキャンパス



チリ

Pontificia Universidad Católica de Chile

交換留学先 チリカトリック大学

法学部4年

出雲 渉 いずも わたる

僕が南米チリ共和国に留学していたのは、二〇〇六年の二月から十二月までの約十ヶ月間です。これから留学を考えている皆さんが知っておいたほうがいいと思うことを、簡単に述べたいと思います。

まず、スペイン語を勉強しようと思って留学する際は注意が必要ですよ！と言うのも、チリのスペイン語はアルゼンチンと並んで訛りが激しいことで有名なのです。実際、僕も日本で少しスペイン語を話せるようになって留学しましたが、当初は彼らが何を言っているのか全く分かりませんでした。努力が必要ですよ。とは言うものの、もしチリのスペイン語を聞き取ることが出来るようになれば、他のどんな地域に行っても大丈夫なくらいのリスニング力が身につくと思うので、そういう意味ではオススメかも知れません。

次に、南米に行かれる皆さんが心配される治安ですが、これは勿論日本ほど安全というわけには行きませんが、夜の一人歩きを避けたり自分のものをキチンと保管していたりなど、当たり前のことに気をつけていれば大丈夫です。僕は特に被害に遭うことはありませんでした（最も、一度だけタクシーでボられてしまったことはありますが…）。

色んな面で日本と文化が違ったりするので、正直戸惑うことも多いですが、そこには「違う考えをもった、でも同じ人間」が住んでいます。週末仲間と飲んで騒いだり、ディスコにいったり不慣れなダンスを踊ったりするなかで、そういった人たちと時間を共有できることは、とっても貴重な経験だと思います。

大学情報

チリカトリック大学は、いくつかキャンパスに分かれています。一番大きなキャンパスは首都サンティアゴの中心地から少し南に下ったところにあります。歴史のある総合私立大学で、世界中からの交換留学生が学んでいます。一番多いのはアメリカ人とドイツ人とかなので、アジア人は少し貴重だったりします。特に日本人は少ないので、昨今のマンガ・アニメブームもあり一部で熱狂的な歓迎を受けます（笑）。

交換留学生には所属学部がないので、好きな授業を割と自由に取れます。僕は、ラテンアメリカ政治に関する授業を中心に取っていました。最初はお経のようで何がなんだか全然分からなかった授業が、時期が経つにつれ少しずつ分かっていくようになるのは、とてもうれしい経験でした。

言いたいことはいろいろありますが、もう書くスペースがありません。ですので最後に…迷うくらいなら行ってください、後悔するかもしれませんが、多分それ以上のものを得られます。



南部パタゴニアにて

交換留学について詳しく知りたい方は、「九大生のための海外留学情報」(<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/>)をご覧ください。過去の交換留学生による報告書も大学毎にたくさん掲載しています。

新聞で報道された九州大学

平成二十年二月上旬〜三月下旬

2月

「九州はひとつ」本当か
突っ走る道州制論 研究者ら一石
（九州スタディーズ研究会
（朝日）2/1）

時評小説「娯捨」の系譜問いの反復
松本常彦比較社会文化研究院教授
（読売）2/1

食品偽装の連鎖が下地 過剰反応は避
けて 南石見明農学研究院教授
（朝日）2/2

異見新言 紛争後の支援
教育の内容にも関与必要
小松太郎言語文化研究院教授
（朝日）2/2

医を診る 情報選択記憶担う海馬
飛松省三医学研究院教授
（朝日）2/2

郷土料理やたこ揚げ
九大留学生らと地元住民が交流
（西日本）2/4

ウィークリーレポート 国土利用の見
直しを 甲斐論農学研究院教授
（熊本日日）2/4

六十五例目脳死移植
きょう実施予定 心臓は九大病院で
（西日本）2/5

九大病院の脳死移植中止
（読売）西日本）2/5

血液疾患と闘うために！白血病など
の血液疾患の現状と最新治療法
九州大学病院百年講堂
（日経）2/5

梶山九州大学長に聞く
「計画前倒し望む」 地域発展の契機に
（西日本）2/5

大学が消える街 箱崎は今
（西日本）2/6

サゴヤシをバイオ燃料に
石崎文彬名誉教授
（朝日）2/6

初見の美本続々と ハーバード大・古
書調査報告 中野三敏名誉教授
（朝日）2/6

九州大学の健康科学センター長に
大柿氏
（西日本）2/7

「水素フォオラム」福岡に四百人
九州大学など主催
（日経）読売）西日本）2/7

あなたの安心 風呂場のアクシデント
栃原裕芸術工学研究院教授
（朝日）2/7

九州大学病院別府先進医療センター市
民公開講座「白血病とがん予防」
（大分合同）2/8

血液疾患の現状と最新治療法
九大病院で医療講演会
（読売）2/8

九大跡地 「一体保存し活用を」
東箱崎の住民団体
大学、市、県に提案書
（西日本）毎日）読売）2/8

クジラ体感PR
九州大学ユーズサイエンス機構巡回
展「クジラとほくらの物語」
（沖縄タイムス）2/8

経団連とT1人材育成
九州大で成果発表会
（西日本）2/9

「苦い」は危険のシグナル
自分の感覚信用を
都甲斐論システム情報科学研究院教授
（熊本日日）2/9

医を診る 働き・位置外部から把握
飛松省三医学研究院教授
（朝日新聞）2/9

嗅覚障害、早めに治療を
安松隆治病院耳鼻咽喉科助教
（西日本）2/10

医療新世紀 研究倫理の審査に課題
笹栗俊之医学研究院教授
（福岡民法）山口）2/10

新海教授が最終講義 九州大伊都キャ
ンパス 分子認識化学の権威
（読売）西日本）日経）毎日）産経）2/10

来月から「市民公開講義」 よみうりプ
ラザ 九大退職教授が楽しく
（読売）2/10

有明海ひめくち底生生物
新種ぞくぞく「宝の海」
九州大、熊本大など生息環境を調査
（熊本日日）2/11

地球の極を究める 北極点の海底掘削
高橋孝三理学研究院教授
（日経）2/12

人工降雨二回目は失敗 佐世保市九大
実験 上空の雲厚み足りず
（西日本）2/14

放送大学公開講演 石川捷治教授
伊藤明夫名誉教授
（毎日）2/14

九大法学部AO入試廃止
（読売）日経）朝日）毎日）西日本）佐賀）熊本日日）
長崎）大分合同）宮崎日日）南日本）2/14、15、
16

地域再生小委員会の初会合詳報
篠崎彰彦経済学研究院教授
加留部貴行大学評価情報室特任教授
（西日本）2/14

自然の風で音楽で
天神のビル屋上で実験
九大の大学院生
（読売）2/16

福岡城に天守閣を
丸山雍成名誉教授
（読売）2/16

石炭活用へ研究施設
四月、筑紫キャンパスに
（西日本）日経）朝日）毎日）2/16

医を診る 精密診断脳波が不可欠
飛松省三医学研究院教授
（朝日）2/16

劇場の「プロ」育てます
九大芸術工芸院四月から
（日経）2/16

がん医療を考える
市民フォオラムに四百人
（西日本）熊本日日）大分合同）宮崎日日）2/18

AO入試見直しの動き
九大法学部来年で廃止
（産経）2/19

難治性疼痛に抗うつ薬
福岡・九州大教授ら研究 有効と確認
（熊本日日）長崎）2/19

平成の大合併の中で
地域生かす「場所の価値」
南博文人間環境学研究院教授
（西日本）2/19

「無塩しようゆ」開発
高血圧抑制を確認
九大など産学官チーム
（西日本）2/20

がん対策を推進 診療拠点を拡充
県が指定通知書 九州大病院
（読売）2/20

水素エネルギー
九大が世界初の大学院
燃料電池など研究
（日経）2/22

僕の私の口ボスクエア
未来の技術者に期待
九大大学院一年 佐々木喜信
（西日本）2/22

批評！「アート・ラブ・ジャズ」展
ジャケットが奏でる物語
池田美奈子芸術工学研究院准教授
（毎日）2/23

製造人材育成事業成果を
九大工芸院が二十五日に報告
（西日本）2/23

高校一、二年生 体験入学者を募集
来月二十七・二十九日
九大物理学講座
（毎日）2/23

陵墓、初の立ち入り調査
奈良・神功皇后陵 西谷正名誉教授
（日刊ゲンダイ）日経）読売）毎日）朝日）2/23

九大教授が公開講義
今春退官前に、来月七日から
（読売）2/23

医を診る 役割異なる二つの睡眠
飛松省三医学研究院教授
（朝日）2/23

博士採用 企業二の足
対話力強化講座
求人情報を収集 九州大
（読売）2/24

いくぞ、九大 二次試験スタート
（朝日）読売）日経）毎日）2/25

地域連携テーマに
前原でフォオラム 九大教育学部
（西日本）2/25

イカ生殖ホルモン発見
松山倫也農学研究院教授
（西日本）読売）2/26

「ダムありき 混乱生む」
反対派市民団体が学習会
球磨川河川整備計画
土肥勲嗣法学研究院助教
（熊本日日）2/26

気孔閉じるタンパク質
CO2濃度との関連解明へ糸口
射場厚理理学研究院教授
（西日本）毎日）朝日）南日本）日経）産経）日刊
工業）2/28

郭沫若顕彰碑九大医学部に
入学九十年記念建立へ
（西日本）2/28

天神通信 近くなった九大
（佐賀）2/29

「環境支払い」を学ぶ
あす九州大でシンポ
（西日本）2/29

3月

ものづくり即戦力育成
九大が人材育成センター
（西日本）2/29

九大 石炭研究センター開設
産学官で環境負荷低減
（日刊工業）2/29

医を診る 脳波は重要な判断材料
飛松省三医学研究院教授
（朝日）3/1

森を守る森を生かす
山が助けを求めている
佐藤宣子農学研究院教授
（西日本）3/1

植物の気孔閉じる機能持つ
九大教授ら「たんばく質」発見
（読売）3/1

物理の世界を学ぼう 九大体験講座
（西日本）3/1

九大伊都楽しい「遊び場」
キャンパスでプレーパーク開催
（読売）3/1

食品表示一本化へ
甲斐論農学研究院教授
（日経）3/2

「福岡城に天守閣あった」
丸山雍成名誉教授ら講演
（読売）3/2

がんに挑む「ハー」 免疫療法
臨床研究は途上だが
片野光男医学研究院教授
（西日本）3/2

分子情報生命科学
理研・九大・北大・阪大
研究推進で協力協定
（日刊工業）3/3

黄砂 まるで泥の雨 九州大は中国の
研究機関と連携し、研究を進める
（朝日）3/3

国立大病院八十一億円未収
法的手段使い回収も 九大など
（朝日）3/3

実験のまち 福岡県久山町で
九大医学部第二内科医師
（朝日）3/3

邪馬台国はどこに？
九州説VS畿内説学識者ら検証
西谷正名誉教授ら
（読売）3/3

研究成果を生かし、人材を育てる
九州大学知的財産本部
前田真准教授
(西日本 3/4)

点検 大学発VIB 九州大
日の組織、染め分け
手術の安全配慮資金調達
(日経産業 3/4)

六本松の九大跡地「公共空間」を要望
市民団体、福岡市に
(読売 西日本 毎日 3/4)

研究室を歩く
CO₂地中へ封じ込め
佐々木久郎工学研究院教授
(読売 3/4)

コレステロール低いと胃がんに
二千六百人追跡調査
清原裕医学研究院教授
(朝日 3/5)

九州大学新病院長に久保氏
(読売 西日本 3/6)

歯周病は全身病
医療ルネサンス・福岡セミナー
前田勝正歯学研究院教授
(読売 3/6)

夫婦の限界 子の視線で
松本常彦比較社会文化研究院教授
(読売 3/7)

化学・生物戦争の世紀
化学戦からみた第一次世界大戦
井上尚英名誉教授
(タリデイリ 3/6, 7, 8, 10, 11, 12)

小国の将来に生かせ 今夏、
味噌桶発売へ 芸術工学研究院
(熊本毎日 3/7)

九大で合格発表
コーヒーで糖尿病予防実験
九大がメタバな男性を募集
(読売 毎日 日経 3/8)

医を診る 顔と表情別の中枢で識別
飛松省三医学研究院教授
(朝日 3/8)

ゲーム開発 福岡を世界的拠点へ
コンテストや就職フェア
(読売 3/8)

歓喜の春消える舞台
合格発表HPが増加
九大前期 合格者発表 やった！
キャンパスに歓声
(読売 3/9)

九大卒業の中国の詩人
郭沫若の顕彰碑完成
(読売 西日本 3/9)

外国人看護師シンポ
九州大アジア総合政策センター
(朝日 3/9)

よみうり市民公開講座 藤教授、
昆虫テーマに講演 九大退職
(読売 3/9)

六本松九大跡地考える
活用術など論議 学内でシンポ
(西日本 3/9)

「感性大学院」で九大、十七日に公開シ
ンポ ユーザーサイエンス機構
(西日本 3/9)

三年目迎えた高樹のぶ子さん「SIA」
出合いのドラマ、魂の揺らぎ
文芸誌、ウェブで情報発信
(毎日 3/10)

「吃音」一人で悩まないで
考える集い九大医師ら体験語る
(読売 3/10)

外国人看護師に関心
病院の八割 九州大が調査
(読売 朝日 3/10, 11)

ちよっとデジタル ブログで読者が身
近に 様々な反応驚き小説変わるかな
作家高樹のぶ子さん
(日経 3/10)

がん治療専門医養成を目指す
九州大学名誉教授・原田会長に聞く
(毎日 3/11)

「救急医療維持市民の協力必要」
公開講座に五百人 水田祥代病院長
(読売 3/11)

九州大学法学部がAO入試廃止へ
(琉球 3/11)

認知症の対応助言
大八木保政神経内科准教授
(読売 3/11)

甘草の栽培共同研究へ
玄海町と九州大覚書に調印
(読売 朝日 西日本 佐賀 日経 3/11, 14)

森づくりに市民ら千人 古賀市で植樹
祭 薛孝夫農学研究院准教授
(読売 3/11)

自治再生第五部地域の底力 危機感募
り住民奮起 九州大学宮崎演習林
(宮崎毎日 3/11)

九大知のパワー
日一タイ間で遠隔手術成功
高速ネットで内視鏡を操作
九大病院が世界初
(西日本 3/12)

県立病院がたごた
派遣の外科医六人引き揚げ
佐賀県と九大側運営方針で対立
(毎日 3/12)

九大寄付「産学連携の好機」
(朝日 3/12)

九州大学どんなところ？
玉龍中生が福岡ツアー
(南日本 3/13)

看護・介護の入手確保へ
外国人受け入れなお課題
高い資格基準、狭い門戸
アジア総合政策センター
(西日本 3/13)

センサー使い味覚分析
宇美中で九大が出前授業
(西日本 3/14)

開かれた現代音楽求めて
地域に根ざしたアジアとも交流
中村滋延芸術工学研究院教授
(朝日 3/14)

経済教室 IT活用促し低成長脱却
篠崎彰彦経済学研究院教授
(日経 3/14)

開国看護現場 看護師支援整わず
平野裕子医学研究院准教授
(読売 3/14)

ダビンチの手術 複製や模型展示
九大開催、十六日まで
(朝日 3/14)

大学発「地鶏ソーセージ」
九大、地場企業と開発
(日経 毎日 3/15)

九大別府先進医療センター外科
森教授が大阪大へ
(大分合同 3/15)

医を診る 感覚と時間の結合に謎
飛松省三医学研究院教授
(朝日 3/15)

消費者の「感性」研究 九大が開設
学力つてなに？
「改革」のはざま
AO入試「質」問われ、いま転機
アドミッションセンター
(西日本 3/16)

糸島地区に関する五百問出題
「伊都検定」三十七人挑む
佐藤剛史農学研究員助教
(西日本 3/17)

賢さ、タフさ、向上心があれば挫折せ
ず 梶山千里総長
(西日本 3/18)

九大 副専攻・留学に認定証
新教育プログラム「チャレンジ21」
(日刊工業 3/18)

変わる玄海島社会 地域のつながり
災害克服の力に 鈴木広名誉教授
(読売 3/18)

三叉神経痛・舌咽神経痛・
片側顔面けいれんの最新治療
兒玉謙次病院手術部助教
(朝日 3/18)

よみうり市民公開講義 「食の安全安
心」を解説 九大退職する甲斐教授
(読売 3/18)

九州大大学院芸術工学研究院研究報告
会
(読売 3/18)

京セラと稲盛財団
九大へ研究施設寄付
(西日本 日経 読売 朝日 毎日 日刊工業 宮
崎毎日 3/19)

超短波 「九州大学製法はかた地どり
ソーセージ」
(西日本 3/19)

シンクロトロン光 九大ビームライン
設置 研究推進へ佐大など連携
(佐賀 3/19)

平和・日韓交流 尽くした三十年
九大法学部の石川教授退官
(朝日 3/19)

県病院 相次ぐ医師退職 「混成チー
ム」が単一医局か 県と九大食い違い
(佐賀 3/19)

九州大学・北海道大学合同活動報告会
「大学の知を社会へ」
(日経 3/20)

九大退職の筒井教授講演
有機EL仕組み説明
(読売 3/20)

九州大学 後期合格者発表
将来に夢ふくらむ
(読売 3/22)

糖尿病一万人調査 九大、五年追跡
合併症原因探る
(朝日 3/22)

「九州芸術工科大学」管弦楽団改称へ
「九大芸術工学部」に
(西日本 3/22)

医を診る 情報処理時には間違い
飛松省三医学研究院教授
(朝日 3/22)

旅の途中 破天荒な人生に魅力
中野三敏九州大学名誉教授
(読売 3/23)

「UMI」で克服を
馬場園明医学研究院教授
(西日本 3/23)

話題ウオッチ 玄海町と九大の薬草研
究 甘草栽培で観光客誘致へ
(佐賀 3/24)

九大 地デジ放送設備導入
次世代ネットワーク研究
(日経 日経産業 3/25)

「強い九大医学部」めざす 世界一の研
究と臨床の場に 高柳涼一医学部長
(読売 3/25)

九州大で卒業式
(読売 朝日 西日本 毎日 3/25)

早大、九大とVB支援拡充
インキユベーションで新施設
(日刊工業 3/25)

九大 海上技術安全研と連携協定
CO₂削減問題などに着手
(日刊工業 3/25)

ミニフオラム「知ってほしい、今
地層処分」/日本のエネルギー「原子
力」の未来を考える
(西日本 3/26)

九大名誉教授 戸崎さんがあす講演会
「仏に導かれて」
(西日本 3/27)

患者を案内 車椅子ロボ
九大、実用化へ実験
(毎日 日経 読売 西日本 佐賀 大分合同 熊
本毎日 宮崎毎日 南日本 沖縄タイムス 3/
26, 27)

水俣病認定 「脳磁計」で客観診断
環境省九大と共同臨床研究
(長崎 3/27)

九大 次世代DESにめど
血管狭窄防止治療 副作用抑制を確認
(日刊工業 3/28)

看病する家族に安らぎ
九大病院前に宿泊施設
(西日本 毎日 3/27, 28)

九大の新講座設置
農業・食品産業技術総合研究機構九州
沖縄農業研究センター
(日経 3/28)

大学ブランド力 九大がトップ
(日経 3/29)

医を診る 「神様以外作れない精巧さ」
飛松省三医学研究院教授
(朝日 3/29)

九大病院 薬剤無断持ち出し
看護師「練習のため」自宅に
(西日本 3/29)

顎変形症の外科的矯正治療
白土雄司歯学研究院教授
(朝日 3/30)

巨大な歩行空間 多様な住まい
九大大学院生が提案
(西日本 毎日 3/30)

きぼう実験候補十四件
九大教授提案も
(読売 3/31)

同窓会の話題

ありあけ九大会から来訪

平成二十年四月十日（木）、ありあけ九大会の泉博士会長（工・昭三十九卒）が会長就任のご挨拶のため、梶山総長を表敬訪問しました。ありあけ九大会は、大牟田・荒尾地区に居住または勤務する同窓生の皆様が参加できる同窓会として、平成九年に設立されました。



席上では、最近のありあけ九大会の活動報告から始まり、同席した事務局幹事の鬼塚賢慈氏（法・昭四十四卒）と柴田理事・副学長を交え、学生時代の思い出や現在の筑後地区を中心とした産業の動向、本学における教育研究の状況など幅広い意見交換が行われました。

最後に泉会長から、本学の百周年記念事業基金へのご寄付があり、梶山総長からは、「今後のありあけ九大会のますますの発展を願っております」との謝辞が述べられました。

編集後記

伊都キャンパスへの移転のため、私が棲む六本松キャンパスもいよいよ今年度が最後。広報室からは六本松を特集する企画のためのアイデアを出してほしいとのことで、これまでのようにいつもいつも（名ばかり編集委員）ではさすがに申し訳ないので、なにか知恵を絞りたいところなのだが、困ったことに今のところはまだ、本当に移転するのか（できるのか）といった半信半疑の心境。実際に引越しの作業が始まらないうと、実感はわかないものなのかもしれない。しかし、そのころになると今度ははてさて無いで、とても企画の立案どころではなくなってしまうのだろう。

編集委員・准教授 佐藤 正則

この四月に千葉の出向先から、三年ぶりに九州大学に戻りました。よく「十年ひと昔」といいますが、現在の大学を取り巻く状況から見ると、「三年大昔」との思いです。千葉時代も「九大広報」には目を通していましたが、実際、広報にたずさわって、日々実感するのは九大のポテンシャルの高さです。教職員の研究や新たな取組から生まれた新鮮な素材は山ほどあります。いかにこの素材にスパイスを効かせ、調理し、皆様の前に出すかということが「九大広報」の役割だと感じます。百周年を間近に控え、梶山総長の下、世界の大学トップ五〇を目指している本学。四つ星レストランならぬ、四つ星大学を目指し、微力ながら頑張らねば。と福岡の新鮮な魚介類をつまみながら考える日々です。今後とも、「九大広報」をよろしく願っています。とともに、皆様からのご感想やご意見をお待ちしています。

広報室 深堀 成吾

九大の最新情報は「九大広報」の定期購読で。

九州大学同窓会連合会では、九州大学の姿をご理解いただくため、同窓生や在学生のご家族の皆様をはじめ、広く一般の方々にも「九大広報」の定期購読をお願いしています。定期購読は年間六巻分（隔月発行）三千円でお受けいただけますので、ご希望の方は、同窓会連合会事務局までご連絡をお願いします。

九州大学同窓会連合会事務局
TEL.092-642-4328 FAX.092-642-2113
E-Mail sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

モノが伝える歴史と未来

Kyushu University Great Treasure VOL.5

大宝
九至



アサガオの 突然変異体

理学研究院生物科学部門

染色体機能学研究室 アサガオグループ

当研究室は、日本の生物遺伝資源を保存している文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）の中核機関に指定されており、一〇〇〇系統以上を保存している世界最大のアサガオ類のストックセンターとして機能している。これら系統の多くは今から二〇〇年ほど前の江戸時代に起源を持つアサガオの突然変異体であり、植物の花色発現や形づくりのメカニズムの解明に役立っている。表紙のアサガオは「笹獅子牡丹」と呼ばれる系統で、器官の裏側（背軸側）の細胞運命を決定する笹（di）と獅子（fe）遺伝子の両方に欠損を持つため、植物全体の裏側がなくなってしまう非常に奇妙な形をしている。他にもアサガオには驚くべき色や形の変異体が多数存在し、詳細について知りたい方は「アサガオホームページ <http://mg.biology.kyushu-u.ac.jp/>」を見ていただきたい。

（理学研究院生物科学部門 助教 仁田坂 英二）



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY